

2438

150
606

禁電

明治廿六年四月中

官報要誌

合本

發兌

中西松香堂

中西松香堂印

特30
203

明治二十六年四月中官報要誌目錄

番號

摘

要

月達
日ノ



○詔勅

男爵議員補選ノ件

廿五日

詔

一

法律

集會及政社法

十三日

法

一

出版法

全

全

七

版權法

全

全

一三

酒稅營業稅法

二十日

全

一九

勅令

第四回內國勸業博覽會開設ノ件

四日

勅

一

第四回內國勸業博覽會事務局官制

全

全

一

農事試驗場官制

七日

全

四

農事試驗場高等官官等及俸給

全

全

五

目錄

明治二十六年四月

第二十號	文官判任以上ノ者退官賜金ニ關スル勅令 中改正	十日	全	六
第二十一號	水産調査所官制	十一日	全	八
第二十二號	奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル學校職員 任免奏薦及宣行ニ關スル件	十七日	全	九
第二十三號	二十六年徵集ス可キ新兵ノ員數	廿一日	全	一
第二十四號	海軍大佐海軍大尉及各相當官進等ノ件	全	全	二
第二十五號	陸軍將校服制中改正	廿二日	全	一三
甲 第二號	○宮内省達 宮内省官吏恩給例、同准官吏恩給例中削 除	十八日	宮達	一
第三號	○内務省令 米國ニテ發行スル十九世紀新聞發賣頒布 禁止	四日	内省	一
第四號	醫術開業試験規則中改正削除	十四日	全	

23408

第五號	藥劑師試験規則中改正削除	全	全	二
第六號	醫術開業試験及藥劑師試験手数料登記印 紙ヲ以テ納付ノ件	全	全	三
第七號	出版及版權ニ關スル願届手續等	二十日	全	
○全訓令				
第四號	○大藏省訓令 巡查看守滿年賜金ニ關スル件	一日	内訓	一
第五號	二十六年度内務省所管歳出科目	十七日	全	
第十三號	○大藏省訓令 歳出經常部恩賞諸祿冲繩縣諸祿ノ目節更 正	四日	大訓	一
第十四號	内國稅徵收費所屬物品出納規程中改正	六日	全	二
第十五號	二十三年訓令第十號二十四年同第七十五 號中削除	十七日	全	三
第十六號	地租條例施行細則ニ依リ荒地免租年期ヲ 定ムヘキ心得方	廿一日	全	

第六號	陸軍省令	二十五年省令第六號中追加	十二日	陸省	一
第五號	司法部令	辯護士職服圖表	五日	司省	一
第四號		辯護士名簿登錄規則	十日	全	全
第三號		辯護士會設立手續取扱方	廿五日	全	全
第二號		二十三年省令第八號中追加	全	全	五
第一號		商法第二百二十六條ニ依リ調査ノ謄本ヲ求ムル者手數料ニ關スル件	全	全	五
第三號	文部省訓令	小學校教員恩給國庫給與金換算調査差出方	十七日	文訓	一
第九號	農商務省令	度量衡法施行規則中改正	十二日	農省	一
第九號	全訓令				

第七號	農事試驗場處務規程	十二日	農訓	一
第八號	二十六年度森林經費科目	廿一日	全	三
第九號	水産調査所處務規程	廿八日	全	一〇
第二十二號	內務省告示	十二日	內告	一
第二十三號	出版物一種發賣預布禁止	廿六日	全	
第二十三號	二十六年第二回醫術開業並藥劑師試驗舉行地及期日	廿六日	全	
第十二號	大藏省告示	一日	大告	一
第十三號	鐵道公債第一回募集總額及應募日限等	十四日	全	二
第十四號	金祿公債等償還及抽籤執行	廿八日	全	三
第十五號	整理公債發行	廿九日	全	
第十五號	支金庫移轉	廿九日	全	
第十五號	陸軍省告示	廿四日	陸告	一
第十五號	明治二十六年徵集近衛海軍新兵	廿四日	陸告	一
第十五號	海軍省告示	廿四日	陸告	一

第一號	明治二十六年海軍志願兵徵募兵員	一日	海告	一二
第二號	海軍兵學校將校生徒志願者心得	八日	全	一
○司法省告示				
第十一號	區裁判所廳舍假設	一日	司告	一
第十二號	地方裁判所、區裁判所移轉	七日	全	
第十三號	登記簿等燒失ニ付更ニ登記ヲ出願スヘキ件	八日	全	
第十四號	地方裁判所、區裁判所移轉	十一日	全	二
第十五號	區裁判所ニテ裁判事務取扱開始期日	十二日	全	
第十六號	舊公證簿燒失ニ附キ更ニ登記ヲ出願スヘキ件	十三日	全	
第十七號	本年告示第十三號中取消	全	全	四
第十八號	區裁判所移轉	全	全	五
第十九號	區裁判所出張所出張裁判當分開廷セサル件	十七日	全	
第二十號	區裁判所ニテ民事裁判事務取扱開始期日	全	全	

第二十一號	區裁判所移轉	十九日	全	
第二十二號	地方裁判所及區裁判所移轉	廿二日	全	
○農商務省告示				
第二號	農事試驗場設置	十一日	農告	一
○遞信省告示				
第一百十二號	印鑑無效	七日	遞告	一
第一百十三號	電信爲替事務開設局名	十日	全	
第一百十四號	郵便爲替取扱所開設箇所	全	全	二
第一百十五號	本邦及南亞弗利加共和國ノ間ニ水液脂肪類商品見本ノ交換開始	全	全	
第一百十六號	郵便受取所同貯金預所廢止	十一日	全	三
第一百十七號	海員技術免狀流失	十五日	全	
第一百十八號	郵便受取所設置	十七日	全	
第一百十九號	郵便爲替及貯金事務開設局名	全	全	
第一百二十號	郵便爲替事務開設局名	全	全	

第二百一十一號	郵便爲替及貯金事務開設局名	全	全	四
第二百一十二號	印鑑紛失	全	全	
第二百二十三號	海底電信線沈布	全	全	
第二百二十四號	郵便貯金事務取扱廢止	廿一日	全	
第二百二十五號	郵便受取所及同貯金預所廢止	全	全	
第二百二十六號	小包郵便取扱郵便受取所名	廿二日	全	
第二百二十七號	郵便受取所移轉改稱	廿四日	全	六
第二百二十八號	鐵道停車場電信取扱所ニテ歐文電報取扱開始	廿五日	全	
第二百二十九號	萬國郵便條約實施細目規則中改正	廿六日	全	
第二百三十號	海外電報料金及諸手数料金表中刪除追加	全	全	七
第二百三十一號	郵便受取所改稱	全	全	
第二百三十二號	郵便局移轉改稱	全	全	
第二百三十三號	小包郵便取扱開始郵便及電信局名	廿七日	全	
第二百三十四號	電信爲替事務開設局名	廿九日	全	九

官報要誌

合本

明治廿六年四月

○詔勅

朕貴族院伯子男爵議員選舉規則第十六條ニ依リ明治二十六年六月二十一日ヲ以テ貴族院男爵議員一名闕員ノ爲ニ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

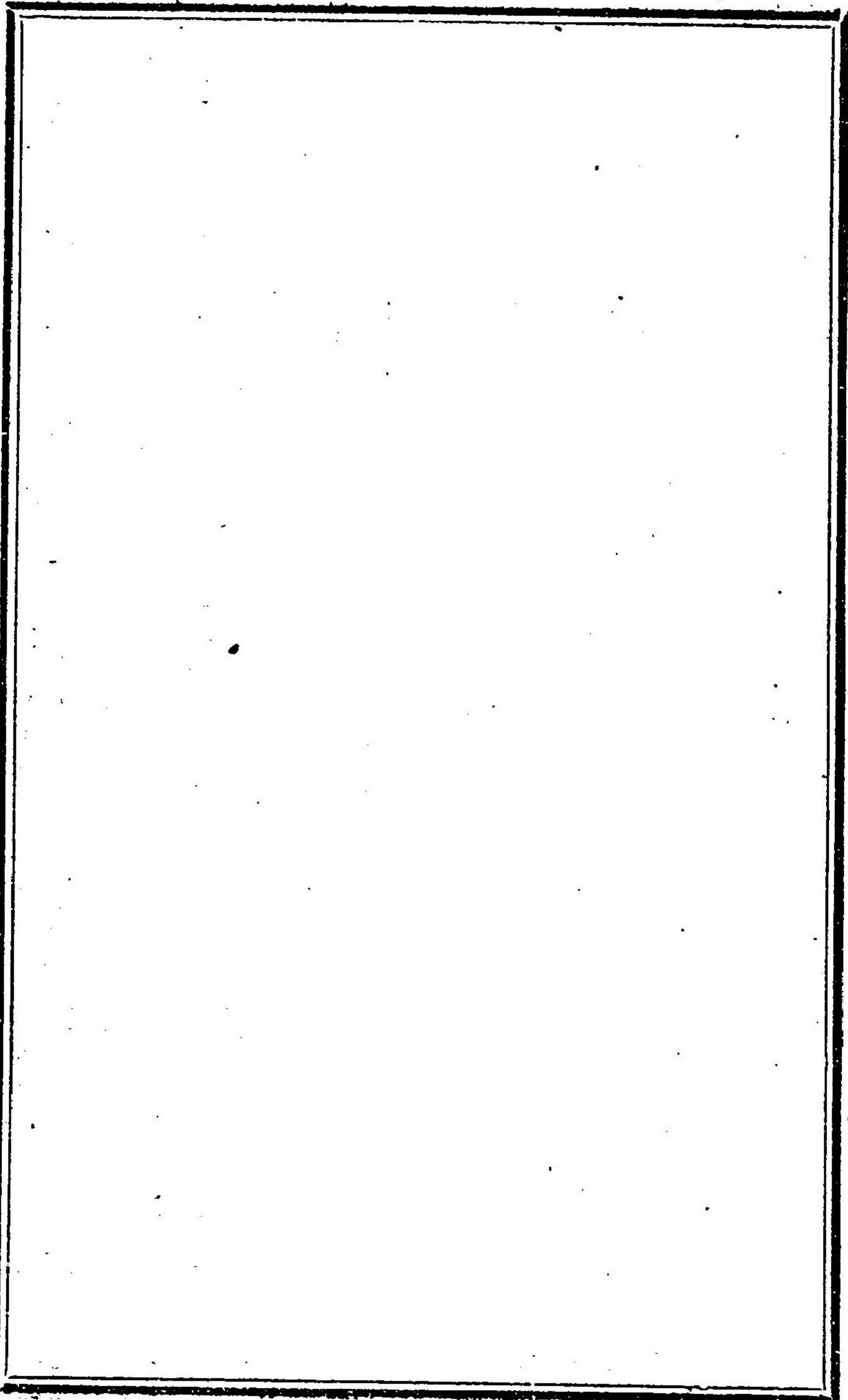
明治二十六年四月二十五日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文

明治二十六年四月

詔勅

二



○法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ集會及政社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月十三日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵井上 馨

法律第十四號

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關スル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ
政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ

明治二十六年四月

法律

一

政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

- 一 集會ノ場所
- 二 集會ノ年月日時
- 三 發起人ノ氏名、住所
- 四 講談論議者ノ氏名

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ
届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中断スルトキハ届出ノ效ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス

第三條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬、講社、學生生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷シタル地域内ニ限ルモノトス
警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

一 日本臣民ニ非サル者

二 公權剝奪及停止中ノ者

第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第八條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

政談集會ニアラサルモ其ノ狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條 集會及運動ニハ武器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ武器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又

ハ憤恤又ハ犯罪ヲ激峻スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 會場ニ於テ故ヲニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一 集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ

二 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

三 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

四 第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルト

五 集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前項ニ同シ

第十五條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若ハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名、社則、事務所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第二十二條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ會場及講談論議者ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
 二 警察官
 三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
 四 女子
 五 未成年者
 六 公權剝奪及停止中ノ者

第二十四條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス
 第二十五條 政社ハ標章及旗幟ヲ用ヰルコトヲ得ス
 第二十六條 政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス
 第二十七條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付 議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス
 第二十八條 政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル
 第二十九條 結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得
 第三十條 第二十一條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ
 第三十一條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ
 第三十二條 第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用ヰタル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ
 第三十三條 第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十四條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス
 第三十六條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ六箇月ヲ經過スルニ由テ成就ス
 第三十七條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限リニ在ラス
 朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月十三日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
内務大臣 伯爵井上馨

法律第十五號

出版法

第一條 凡ソ機械會密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發

賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作為スル者ヲ
 著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ
 第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依
 ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スル
 コトヲ得

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二
 部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ内務省
 ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ
 著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

版權ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサル
 トキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等
 ナ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ
 其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記
 載スヘシ

第八條 文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記
 載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス
 前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲ記載スヘシ

第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫真ハ第三
 條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十
 一條第二十六條第二十七條ニ觸ル者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條 文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但
 シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタル
 モノト看做スヘシ

第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ
 又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說者ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ
 演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ

此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條
 第二十七條ニ觸ルトキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ
 雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其筆記ヲ出版シタルモノ

ニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルト

キハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰金ニ處ス

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用非ス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル版權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文
內務大臣 伯爵井上馨

法律第十六號

版權法

第一條 凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其ノ利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版法ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜誌ヲ發行スル者ハ總テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ケムト欲スル者ハ發行前登錄料トシテ製本六部ノ定價ヲ添ヘ版

權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但第六部ノ定價合シテ五十錢ニ滿サルモノハ五十錢トシ十
 圓ヲ超ユルモノハ十圓トス
 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ定價ヲ記載スヘシ版權登錄後定價ヲ増加スルモノハ其ノ
 未納額ヲ内務省ニ追納スルニシテ但追納額ハ最初ノ納額ト通算シテ十圓ニ至テ止ム
 第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ヲ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ内務省
 ニ通知スヘシ
 第五條 版權登錄ノ文書圖畫ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記
 載セサルモノハ登錄ノ效ヲ失フモノトス
 第六條 内務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ
 下付スヘシ
 登錄ヲ經タル文書圖畫ハ内務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ
 第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作ノ死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若
 ハ演說ヲ筆記シタルモノハ版權亦同シ但公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出
 版スルモノハ版權侵害ト認ムル限ニ在テス
 翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス
 官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其ノ官廳、
 學校、會社、協會等ニ屬スルモノトス
 二種以上ノ著作若ハ講義演說ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖畫ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂
 者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ別ニ版權所

有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セ
 ス
 書畫ノ版權ハ其ノ原本ノ所有者ニ屬スルモノトス
 第八條 版權ハ制限ヲ附シ若ハ附セズニテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得
 第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ内務省ニ
 願出ルコトヲ得但シ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ
 版權登錄證書ニ誤謬アリタルトキハ其ノ理由ヲ記シ其ノ更正ヲ内務省ニ願出ルコトヲ
 得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ
 第十條 版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ
 死亡ノ月マテ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三
 十五年トス
 數人ノ合著ニ係ルモノハ版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス
 官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ニ著作死亡
 ノ後ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス
 第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算
 ス但シ其ノ都度第三條ノ手續ヲナスヘシ
 雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得
 第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖畫ヲ改正増減シ又ハ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製
 本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトナカルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖畫ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖畫ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖畫ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セムト欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙竝ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說、記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタルモノハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖己ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有者ノ文書圖畫ヲ偽版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 偽版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣願布ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ未僞版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其

ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關ル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經スルヲ版權所有者ノ文書圖畫ヲ翻譯シ増減シ註釋、附録、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ僞版ナシテ論ス

他人ノ講義又ハ公開ナラサル席ニ於テ演説、筆記、其ノ許諾ヲ經スルヲ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ヲニ版權所有者ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ模倣シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ナシテ論ス

第二十二條 著作者又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經スルヲ未タ出版セザル文書圖畫ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スルモノ亦僞版ナシテ論ス所有者ノ承諾ヲ經スルヲ書畫ヲ出版スルモノ亦同シ

第二十三條 文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ僞版ナシテ論ス

第二十四條 内國ニテ版權所有者ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ナシテ論ス

第二十五條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ヲ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十六條 偽版ニ關スル損害賠償ノ時効ハ其ノ原書ノ版權年限終ル以後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者、販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ヲ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隠匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ著作者又ハ發行者ヲ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サズニテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第三十一條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條 從前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ從前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル酒精營業稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月二十日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文
大藏大臣 渡邊國武

法律第十七號

酒精營業稅法

第一條 酒精(アルコール)又ハ他物ト混和シタル酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ左ノ二種トス

甲種營業人
本條ノ物品ヲ製造シ又ハ買入レ之ヲ自用者ニ非サル者ニ販賣スル者

乙種營業人
本條ノ物品ヲ製造シ又ハ甲種營業人ヲ經由セスニテ買入レ之ヲ自用者ニ販賣スル者

第二條 本法ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 營業ノ免許ヲ受クル者ハ政府ノ定ムル所ニ從ヒ保證金トシテ十圓以上千圓以下ノ現金又ハ國債證券ヲ以テ供託スヘシ

明治二十六年四月

法律

十九

第四條 本法ノ税金ヲ滞納シタルトキハ保證金ノ一部又ハ全部ヲ以テ税金ニ充ツ仍不足
スルトキハ明治二十二年法律第三十二號國稅滞納處分法ニ據テ處分スヘシ

第五條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ
甲種營業人 酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

乙種營業人 酒精(アルコール)一石ニ付金二十五圓ノ割合

營業人ヲ經由セスシテ第一條ノ物品ヲ買取り消費スル者ハ本條ニ準シテ納稅スヘシ
第六條 營業稅ハ翌年一月三十一日限之ヲ納ムヘシ但シ廢業スル者ハ其ノ際營業稅ヲ納
ムヘシ

前項ノ期限内ト雖營業稅高第三條ノ保證金高ニ超過スルトキハ先ツ其ノ税金ヲ納メテ
後之ヲ販賣スヘシ

第七條 第一條ノ物品ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者(造酒家ヲ除ク)ハ勅令ヲ以テ定ム
ル所ノ規定ニ從ヒ其ノ營業稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第八條 營業者ハ帳簿ヲ調製シ第一條物品ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ主任官吏ノ檢定ヲ受クヘシ

第九條 主任官吏ハ正當ノ命令ニ依リ營業者ノ營業ニ關スル帳簿物品等ヲ檢査スルコト
アルヘシ

第十條 無免許ニテ營業シタル者ハ其ノ現在酒精類及營業用ノ物品器械ヲ沒收シ營業稅
三倍ノ罰金ニ處ス但シ己ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價ヲ追徵ス

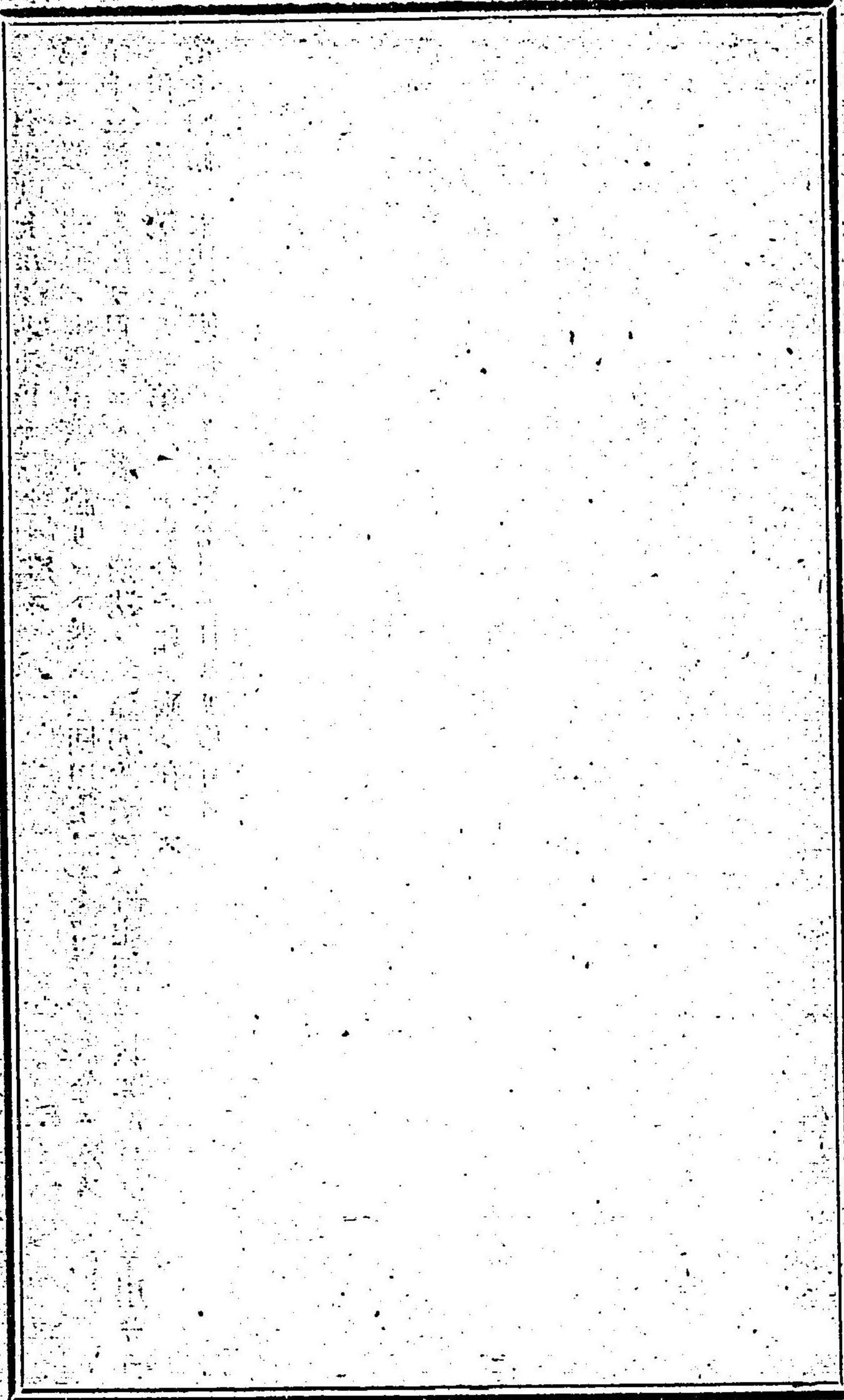
第十一條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若ハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタル者

八十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用井ス
但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本法ハ明治二十六年七月一日ヨリ施行ス



○勅令

朕第四回内國勸業博覽會開設ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月四日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
農商務大臣 伯爵後藤象二郎

勅令第十六號

第四回内國勸業博覽會ヲ明治二十八年四月一日ヨリ七月三十一日マテ京都府京都市上京區岡崎町ニ開設ス

朕第四回内國勸業博覽會事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月四日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

明治二十六年四月

勅令

一

勅令第十七號

農商務大臣 伯爵後藤象二郎

第四回内國勸業博覽會事務局官制

第一條 第四回内國勸業博覽會事務局ハ明治二十八年京都市ニ開設スヘキ博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

第二條 本局ハ農商務省中ニ之ヲ置ク

第四回内國勸業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人

副總裁 一人

審査總長 一人

事務官長 二人

事務官 若干人

審査官 若干人

評議員 若干人

書記 若干人

第三條 總裁ハ皇族勅ニ依リ之ニ任ス副總裁ハ農商務大臣審査總長ハ勅任官事務官長事務官ハ勅任官又ハ奏任官ヲ以テ之ニ充ツ

審査官及評議員ハ官吏其他ニ就キ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シテ之ニ充ツ

書記ハ官吏又ハ其他ノ者ヲ以テ之ニ充テ其判任官ニ非サル者ノ取扱ハ判任官ニ準ス

第四條 副總裁ハ事務ヲ分掌セシムル爲メ便宜課ヲ設ケ審査ヲ分掌セシムル爲メ部ヲ設ケ各課各部ニ其長ヲ置キ且審査部ニ審査幹事ヲ置クコトヲ得

第五條 課長ハ事務官ヲ以テ之ニ充テ部長審査幹事ハ審査官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 副總裁ハ所部ノ官吏ヲ統督シ局務ヲ總判ス

第七條 審査總長以下職員ノ進退ハ總テ副總裁ノ請議ニ依リ内閣總理大臣奏請裁可ヲ經内閣ニ於テ之ヲ命ス但書記ハ副總裁之ヲ命ス

第八條 副總裁ハ本會ノ事務ニ關シ諸規則ヲ定メ及警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ訓令スルコトヲ得

第九條 副總裁ハ内外ノ學識經驗アル者ヲ選定シ學藝其他ノ要件ヲ諮問シ若クハ審議調査セシムルコトヲ得

第十條 副總裁ハ本會ノ經費豫算定額内ヲ以テ僱員ヲ使用シ又ハ第二條ノ職員及第九條ノ者ニ賞與シ又ハ報酬スルコトヲ得

第十一條 事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ一切ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 事務官ハ副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十三條 審査總長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ出品物ノ審査及之ニ關スル事務ヲ總理ス

第十四條 審査官ハ審査總長ノ命ヲ承ケ出品物ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十五條 評議員ハ副總裁ノ命ヲ承ケ重要ノ事項ヲ審議ス

第十六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各其庶務ニ從事ス

朕農事試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月七日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
農商務大臣 伯爵後藤象二郎

勅令第十八號

農事試驗場官制

第一條 農事試驗場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 農産ノ増殖改良ニ關スル試驗

二 巡回講話

三 土質、種子、肥料、飼料等ノ分析鑑定

第二條 農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

技師

書記

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理

ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ二十人ヲ以テ定員トス

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス專任技師ハ七人ヲ以テ定員トス

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス專任書記ハ八人ヲ以テ定員トス

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ農事試驗場支場ヲ置キ農事試驗場職員ヲ派シ本場

ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條 農事試驗場及支場ノ名稱位置及管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

朕茲ニ農事試驗場高等官官等及俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十六年四月七日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
農商務大臣 伯爵後藤象二郎

勅令第十九號

農事試驗場技師ノ官等ハ高等官四等ヨリ高等官九等ニ至リ其俸給及官等相當俸給ハ別表

ニ依ル

別表

農事試驗場高等官年俸表

明治二十六年四月

勅令

六

農事試驗場技師

一級千五百圓 二級千二百圓 三級千圓 四級九百圓 五級八百圓
六級七百圓 七級六百圓 八級五百圓 九級四百圓

農事試驗場高等官官等相當俸給表

官名	官等	俸給
農事試驗場技師	四等	一級俸
	五等	一級俸
	六等	二級俸
	七等	三級俸
	八等	四級俸
	九等	五級俸
		六級俸
		七級俸
		八級俸

朕茲ニ文官判任以上ノ者退官賜金ニ關スル勅令中改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十六年四月十日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
大藏大臣 渡邊國武

勅令第二十號

明治二十三年第九十八號文官判任以上退官賜金ニ關スル勅令第一項中「十五年未滿」ノ五字ヲ削ル

勅令第二十號參照

勅令第九十八號(明治二十三年六月二十一日官報)

文官判任以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス
本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲クル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス
恩給ヲ受クル者並自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス
本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

朕水産調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム

御名 御璽

明治二十六年四月十一日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
農商務大臣 伯爵後藤象二郎

勅令第二十一號

水産調査所官制

明治二十六年四月

勅令

七

第一條 水産調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 水産動物ノ調査
 - 二 漁具漁船及漁法ノ調査
 - 三 漁場ノ調査
 - 四 水産物ノ繁殖製造及漁撈ノ試験
 - 五 製鹽ノ調査及試験
 - 六 水産物販路ノ調査
 - 七 漁業經濟及統計ノ調査
 - 八 水産ニ關スル慣行ノ調査
- 第二條 水産調査所ニ事務官一人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
事務官ハ所中諸般ノ事務ヲ掌理ス
- 第三條 農商務大臣ハ左ノ事項ヲ審議セシムル爲メ水産調査所ニ水産調査委員會ヲ設ク
- 一 水産ニ關スル調査及試験ノ事項
 - 二 調査及試験ノ委託ニ關スル事項
 - 三 調査費ノ用途
 - 四 遠洋漁業ニ關スル事項
 - 五 水産業保護ニ關スル事項
 - 六 其他農商務大臣ノ諮詢スル事項
- 第四條 水産調査委員會ハ委員長一人委員十二人及臨時委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 事務官委員長委員及臨時委員ハ官吏其他ニ就キ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選

定シ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條 委員會ハ水産ニ關スル意見ヲ農商務大臣ニ具申スルコトヲ得

第七條 農商務大臣ハ委員會ノ意見ヲ聞キ内外ノ學識經驗アル者又ハ學會若クハ會社組

合等ニ委託シ水産ニ關スル事項ヲ調査シ若クハ試験セシムルコトヲ得

第八條 農商務大臣ハ第四條及第七條ノ者ニ手當ヲ給與シ又ハ報酬スルコトヲ得

第九條 水産調査所ニ專任書記一人ヲ置ク

朕委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校職員任免奏薦及宣行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月十七日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
文部大臣 井上 毅

勅令第二十二號

明治二十四年勅令第二百十七號尋常師範學校官制第二條但書及明治二十四年勅令第二百

明治二十六年四月

勅令

九

明治二十六年四月

勅令

十

四十四號公立中學校高等女學校專門學校技藝學校職員名稱待遇及任免ニ關スル勅令第二條ニ依リ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各學校職員ノ任免奏薦及宣行ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依ル

勅令第二十二號參照

勅令第二百十七號尋常師範學校官制(明治二十四年十一月十七日官報)抄録

第二條敎諭助敎諭令監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但敎諭ノ中一人ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

勅令第二百四十四號公立中學校高等女學校專門學校技藝學校職員名稱待遇及任免(明治二十四年十二月十四日官報)抄録

第二條 學校長敎諭助敎諭令監書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但學校ノ等位種類等ニ依リ學校長及敎諭一名ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

勅令第九十六號高等官官等俸給令(明治二十五年十一月十四日官報)抄録

第四條 奏任官ノ任官及敘等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

朕明治二十六年徵集ス可キ新兵員數ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年四月二十一日

海軍大臣 伯爵西郷從道
陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第二十二號

明治二十六年徵集ス可キ新兵ノ員數左表ノ通定ム

明治二十六年徵集新兵員數表

所管	兵種		砲兵	工兵	輜重		縫工	靴工	水兵	火夫	計
	步兵	騎兵			輜卒	輪卒					
近衛師團	一九三二	九四	二二八	七四	六〇	一八〇	三三	一七	〇	〇	二、五二六
第一師團	一九四七	一〇三	一九九	一一一	六四	三六〇	四〇	一八	〇	〇	三、一五三
第二師團	一九二二	九九	二〇九	一〇	六〇	三六〇	三六	一六	〇	〇	二、八一一
第三師團	一九四五	九四	一九五	一一九	六六	三六〇	三六	一六	〇	〇	二、八三一
第四師團	一九二七	九四	一九三	一一〇	六三	三六〇	三六	一六	〇	〇	二、七九八
第五師團	一九六四	九四	一九三	一一三	六五	三六〇	三六	一六	〇	〇	二、八四〇
第六師團	一九三〇	九四	一九三	一一一	六三	三六〇	三九	一七	〇	〇	二、九八

明治二十六年四月

勅令

十一

明治二十六年四月

勅令

十六

下副官

(圖ハ略ス)

○宮内省達

○(宮内省)

甲第一號

四月十八日

明治二十三年(八月)宮内省達第十六號宮内省官吏恩給例第十四條及宮内省准官吏恩給例第八條中「十五年未滿」ノ五字ヲ削ル
奉 勅

宮内省達甲第二號參照

宮内省達第十六號(明治二十三年八月九日)抄録

宮内省官吏恩給例

第十四條 判任官以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ明治二十三年勅令第九十八號ヲ適用シ一時賜金ヲ給ス

宮内省准官吏恩給例

第八條 准官吏在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ明治二十三年勅令第九十八號ヲ適用シ一時賜金ヲ給ス

明治二十六年四月

宮内省達

一

○内務省令

○〔内務省〕

第三號

四月四日

米國ニ於テ發行スル第十九世紀新聞第四號ハ治安ヲ妨害スルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ據リ自今内國ニ於テ發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フヘシ

○〔内務省〕

第四號

四月十四日

明治二十四年(十一月)内務省令第十八號醫術開業試驗規則第十四條左ノ通改正シ第十五條ヲ削除ス但本年第一回試驗出願者ハ従前ノ規定ニ依リ延期ヲ願出ルコトヲ得
第十四條 醫術開業試驗ヲ出願スル者ハ其際左ノ手数料ヲ納ムヘシ但納付シタル手数料ハ返付セス

- 前期試験手数料
- 後期試験手数料
- 齒科試験手数料

- 金三圓
- 金五圓
- 金五圓

内務省令第四號參照

内務省令第十八號(明治二十四年十一月五日)抄録
第十四條 醫術開業試験ヲ出願スル者ハ左ノ手数料ヲ願書ニ添ヘ其地方廳ニ納ムヘシ
前期試験手数料 金三圓
後期試験手数料 金五圓

明治二十六年四月

内務省令

明治二十六年四月

內務省令

二

書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

齒科試驗手数料

金五圓

第十五條 試驗ヲ聞届ケサル者及受験前死亡シタル者ノ外總テ納付シタル手数料ハ返付セズ

但止ムテ得サル事故アリテ受験前日迄ニ次回ヘ延期ヲ願出テ其許可ヲ與ヘタルトキハ次回ニ於テハ更ニ手数料ヲ徴收セス

○〔內務省〕

第五號

四月十四日

明治二十四年(十一月)內務省令第十九號藥劑師試驗規則第六條左ノ通改正シ第八條ヲ削除ス但本年第一回試驗出願者ハ従前ノ規定ニ依リ延期ヲ願出ルコトヲ得

第六條 藥劑師試驗ヲ出願スル者ハ其際試驗手数料金五圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ返付セス

內務省令第五號參照

內務省令第十九號(明治二十四年十一月五日)抄録

第六條 藥劑師試驗ヲ出願スル者ハ試驗手数料金五圓ヲ願書ニ添ヘ其地方廳ニ納ムヘシ

第八條 試驗ヲ聞届ケサル者及受験前死亡シタル者ノ外總テ第六條ノ手数料ヲ返付セス

但止ムテ得サル事故アリテ受験前日迄ニ次回ヘ延期ヲ願出テ其許可ヲ與ヘタルト

キハ次回ニ於テハ更ニ手数料ヲ徴收セス

○〔內務省〕

第六號

四月十四日

醫術開業試驗及藥劑師試驗手数料ハ自今其金額ニ相當スル登記印紙ヲ願書ニ貼シ納付ス

○〔內務省〕

第七號

四月二十日

出版及版權ニ關スル願届手續等左ノ通り之ヲ定ム

第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ內務大臣宛ニテ差出ス可シ

第二條 出版法第七條第八條ニ依リ文書圖畫ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ

第三條 他人ノ書畫ヲ臨寫シ若クハ摹寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スル者ハ其紙面中ニ臨寫若クハ摹寫者誰又ハ書者誰ト記載スヘシ

第四條 出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ(何年月日內務省許可)ト記載スヘシ但明治二十年(十二月)勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タルモノ亦同シ

第五條 版權法第十一條第二項ニ依リ版權登録願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ豫メ大

約一箇年內出版ノ分隨意取束テ版權登録ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ

原字ヲ以テ認メ届書ニ添付ス可シ

第七條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登録願ハ第三書式雜誌版權登録願

ハ第四書式寫真版權登録願ハ第五書式版權登録證再度下付願ハ第六書式ニ依ル可シ

明治二十六年四月

內務省令

三

明治二十六年四月

內務省令

四

第八條 出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得ヘキモノニシテ其許諾ヲ得テ出版届出又ハ版權登録願出ルトキハ其旨ヲ届書又ハ願書ニ記スヘシ

非賣ノ文書圖書ヲ出版スル者ハ其届書並製本中ニ非賣品ト記スヘシ

第九條 専ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法ニ依ラント欲スル者ハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第八書式ニ依ル可シ

第十條 版權登録願ヲ許可スルトキハ第九書式寫真版權登録願ヲ許可スルトキハ第十書式ノ願書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ依ル

第十一條 此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年(二月)內務省令第一號明治二十三年(三月)同省令第一號明治二十五年(三月)同省令第三號ハ同日ヨリ之ヲ廢ス

第一書式 用紙美濃紙
出版御届

全何冊(枚)

一書名 右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニシテ今般出版候條製本二部相添此段御届申上候也

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

住所 發行者 氏 名 印
住所 著作者(相續者)氏 名 印

第二書式 用紙同上

再版御届

全何冊(枚)

一書名 右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ何年月日出版(發行)致候處改正(増減、附録、註解、繪圖等)相加ヘ今般再版候條製本二部相添此段御届申上候也

年月日

內務大臣(爵)何誰殿

住所 發行者 氏 名 印
住所 著作者 氏 名 印

第三書式 用紙同上

版權登録願

一書名

全何冊(枚)

此登録料製本六部ノ定價金何圓錢 壹部ノ定價金何圓錢
六部ノ定價金五拾錢ニ滿タルモノハ登録料金五拾錢ト記載シ其拾圓ヲ超ユルモノハ登録料金拾圓ト記載スヘシ

登記印紙

登記印紙

登記印紙

明治二十六年四月

內務省令

五

明治二十六年四月

內務省令

六

右何年月日出版御届致候處版權登録被下度此段相願候也

年 月 日

內務大臣(爵)何誰殿

住所
版權所有者 氏 名 印

第四書式 用紙同上

雜誌版權登録(手續省略)願

一書名

第何號(自第何號至第何號)何冊 壹部ノ定價金何圓錢

此登録料製本(各號)六部ノ定價金何圓錢

(金五拾錢ニ滿タルモノハ登録料金五拾錢ト記載シ拾圓ヲ超ユルモノハ登録料金拾圓ト記載スヘシ)

登記印紙

登記印紙

登記印紙

右ハ何年月日出版御届致(「出版法ニ依リ出版致スヘク」新聞紙條例ニ依リ發行致スヘク)候處版權登録被下度此段相願候也

年 月 日

內務大臣(爵)何誰殿

住所
編輯者 氏 名 印

第五書式 用紙同上

寫眞版權登録願

一物象ノ名

何枚 壹部ノ定價金何圓錢

此登録料製本六部ノ定價金何圓錢

登記印紙

登記印紙

登記印紙

右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニシテ今般發行致候條版權登録被下度見本ニ葉相添此段相願候也

年 月 日

內務大臣(爵)何誰殿

住所
版權所有者 氏 名 印

第六書式 用紙同上

(寫眞)版權登録證書再度御下付願

(寫眞)版權登録番號

一書名(物象ノ名) 全何冊(枚)

此手數料金五拾錢

明治二十六年四月

內務省令

七

登記印紙

右何年月日版權登録御許可ヲ受ケタル處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登録證更ニ御下付被下度此段相願候也

年月日

住所

版權所有者

氏

名印

内務大臣(爵)何誰殿

第七書式 用紙同上

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版御届

一書名

第何號

右ハ專ラ何々ノ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回發行致スヘキモノニ候處出版法ニ依リ出版候條製本ニ部相添此段御届申上候也

年月日

住所

編輯者

氏

名印

住所

發行者

氏

名印

内務大臣(爵)何誰殿

第八書式 用紙同上

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版手續省略願

一書名

第何號ヨリ

右ハ專ラ何々ノ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ毎年(月)何回出版法ニ依リ出版可致候條同法第三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノ相納候様致度此段相願候也

年月日

住所

編輯者

氏

名印

住所

發行者

氏

名印

内務大臣(爵)何誰殿

明治二十六年四月

内務省令

十

第九書式

版權登録之證

割印
書名 何冊

著作
者氏名
版權所有者氏名

右第
號ヲ以テ版權登録簿ニ登
録ス

明治年月日

内務省
省印

著作
者自ラ版權ヲ所有スルトキハ
別ニ版權所有者ノ氏名ヲ記載セス

第十書式

寫真版權登録之證

割印
物象ノ名 何枚

攝影
者氏名
版權所有者氏名

右第
號ヲ以テ寫真版權登録簿
ニ登録ス

明治年月日

内務省
省印

攝影
者自ラ版權ヲ所有スルトキハ
別ニ版權所有者ノ氏名ヲ記載セス

第十一書式

版權登録之證

書名 何冊

著作
者氏名
版權所有者氏名

右第
號ヲ以テ版權登録簿ニ登
録ス

明治年月日

内務省

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ
依リ此證書ヲ下付ス

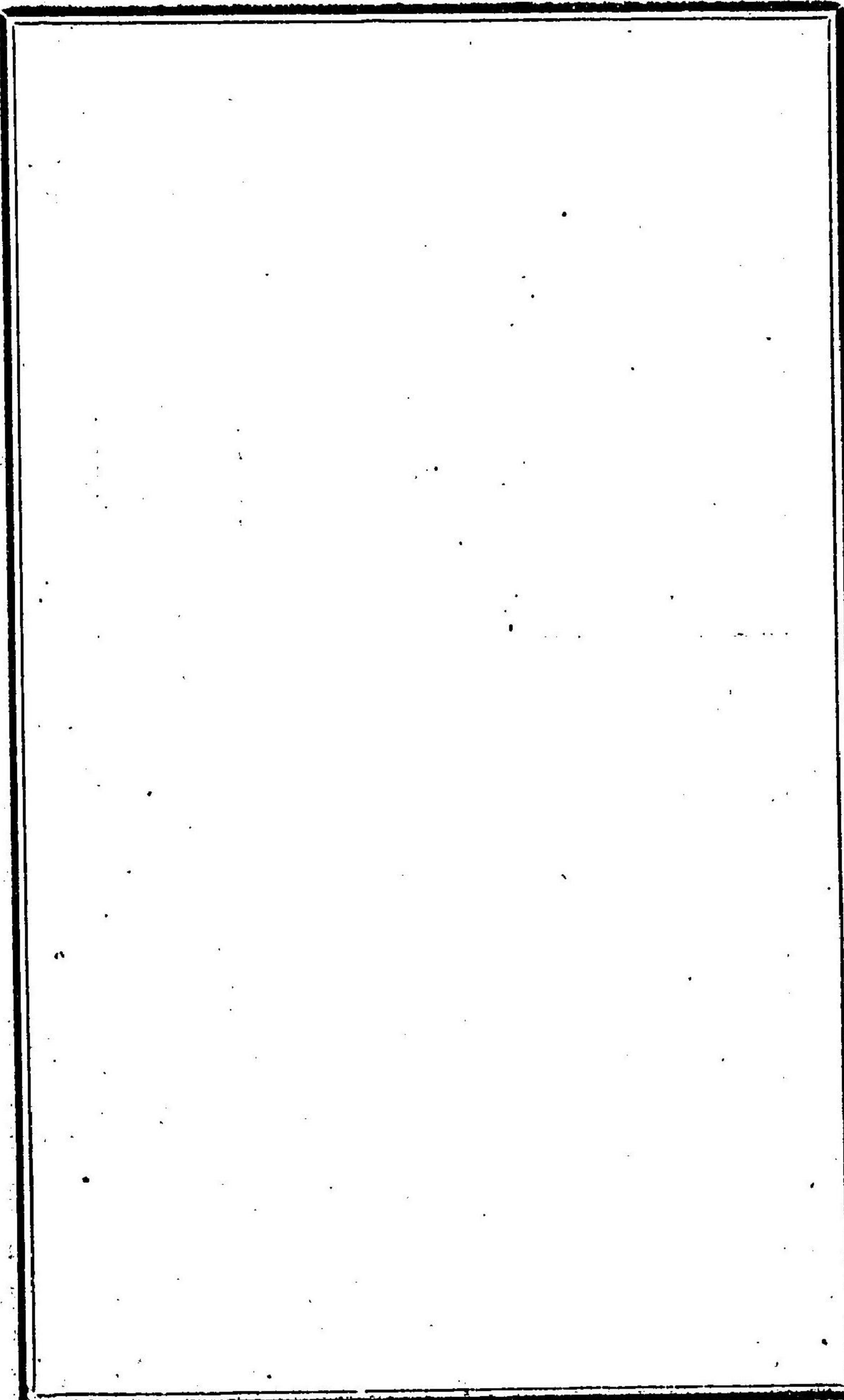
割印
明治年月日
内務省
省印

裏

明治二十六年四月

内務省令

十一



○内務省訓令

○〔内務省〕

第四號

四月一日

府縣東京府
ヲ除ク

府縣ノ分合又ハ管轄替ニ依リ巡查看守等甲廳ヨリ乙廳ニ引繼キ勤務スル者ハ勤績トシ明治十五年(一月)當省達乙第三號ニ依リ滿年賜金ヲ支給スルノ限リニアラス

内務省訓令第四號参照

内務省乙第三號達(明治十五年一月二十日)抄録

巡査監獄看守等經濟ヲ異ニスル向ヘ轉任スル節ハ一旦打切滿年賜金ヲ給スヘク此旨相達候事

○〔内務省〕

第五號

四月十七日

警視廳 北海道廳 府 縣
集治監 假留監 土木監督署
臨時橫濱築港局

明治二十六年度當省所管歳出科目別冊ノ通相定ム
但別冊ハ別ニ頒付ス

明治三十六年四月

内務省訓令

二

○大藏省訓令

○〔大藏省〕

第十三號

四月四日

沖繩縣

二十四年度及二十六年度歳出經常部恩賞諸祿沖繩縣諸祿ノ目節左記朱書ノ通更正ス

(〔内ハ朱書〕)

二十四年度歳出經常部

款	項	目	節
恩賞諸祿	沖繩縣諸祿		
		〔沖繩縣寺院役知役俸〕	
		〔沖繩縣僧侶飯米〕	
		〔沖繩縣寺祿ノ目ヲ上記ノ二目ニ更ス〕	
二十六年度歳出經常部			
款	項	目	節
恩賞諸祿	沖繩縣諸祿		
		〔沖繩縣寺祿〕	

明治三十六年四月

大藏省訓令

一

明治二十六年四月

大藏省訓令

二

「役知」
「役俸」

「沖繩縣寺院役知役俸ノ目ヲ更メ同目中二節ヲ設ク」

○〔大藏省〕 第十四號

四月六日

府縣

明治二十五年(六月)當省訓令第三十七號内國稅徵收費所屬物品出納規程第四條左ノ通收
マ四月十五日ヨリ施行ス

第四條中必要ノモノハノ下ニ「各員又ハ各部署ニ對シ每一箇月定額ヲ以テ仕拂若クハ」ノ
二十四字ヲ挿入シ但書末文「爲サシムヘシ」トアルヲ「爲サシメ定額渡ノ物品ニシテ年
度末ニ至リ殘餘ヲ生シタルトキハ之ヲ返納セシムヘシ」ト改ム

大藏省訓令第十四號參照

大藏省訓令第三十七號内國稅徵收費所屬物品出納規程(明治二十五年六月十八日)

抄録

第四條 消耗品中日常必要ノモノハ一箇月以内ノ期限ヲ定メ需用概算高ヲ以テ支拂フ
コトヲ得但概算渡ノ物品ハ遣拂精算ヲ爲サシムヘシ

○〔大藏省〕 第十五號

四月十七日

北海道廳 府縣

明治二十三年當省訓令第十號別冊第十四號地租臺帳様式中翌年分繰上地租及測定 濟額、
納期ノ欄隨時收入ニ係ル分及凡例第六項尤モ以下第七項第九項ヲ削除シ同二十四年當省
訓令第七十五號國稅賦課現計書甲第二號様式中翌年分賦課ノ項及凡例第三項同第三號様
式凡例第十六項ヲ削除ス

但明治二十六年度分ヨリ本訓令ニ據リ調製スヘシ

○〔大藏省〕 第十六號

四月二十一日

府縣 沖繩縣
ヲ除ク

地租條例施行細則第十二條同取扱方第六條ニ依リ荒地年期ヲ定メ若クハ稟議スル場合ハ
左ノ通心得ヘシ
一荒地免租年期ハ其地形ノ變狀沈定シ被害ノ深淺判明ナルヲ待テ検査ヲ遂ケ之ヲ定ムヘ
一海嘯荒地ニ係ル免租年期ハ三箇年以内ヲ適度トス但堤塘破潰等ノ爲メ復舊自辨ノ工費
巨額ヲ要スルモノハ工費ノ多寡ニ應シ十五年以内適宜取調ヘシ

明治二十六年四月

大藏省訓令

三

明治二十六年四月

大藏省訓令

四

○陸軍省令

○〔陸軍省〕

第六號

四月十二日

明治二十五年(三月)陸軍省令第六號第二項ニ左ノ但書ヲ追加ス
但一日行程ハ汽車路二百哩海路百海里陸路十二里詰ヲ以テ最下限トス

陸軍省令第六號參照

陸軍省令第六號(明治二十五年三月二十九日)抄録

第二項

一 條例第三十二條第五十三條ノ出發時限ハ召集令狀領收後二十四時以内(旅費金受領ノ爲メ二十四時ヲ經過シタル者ハ旅費金受領後即時)トス

明治二十六年四月

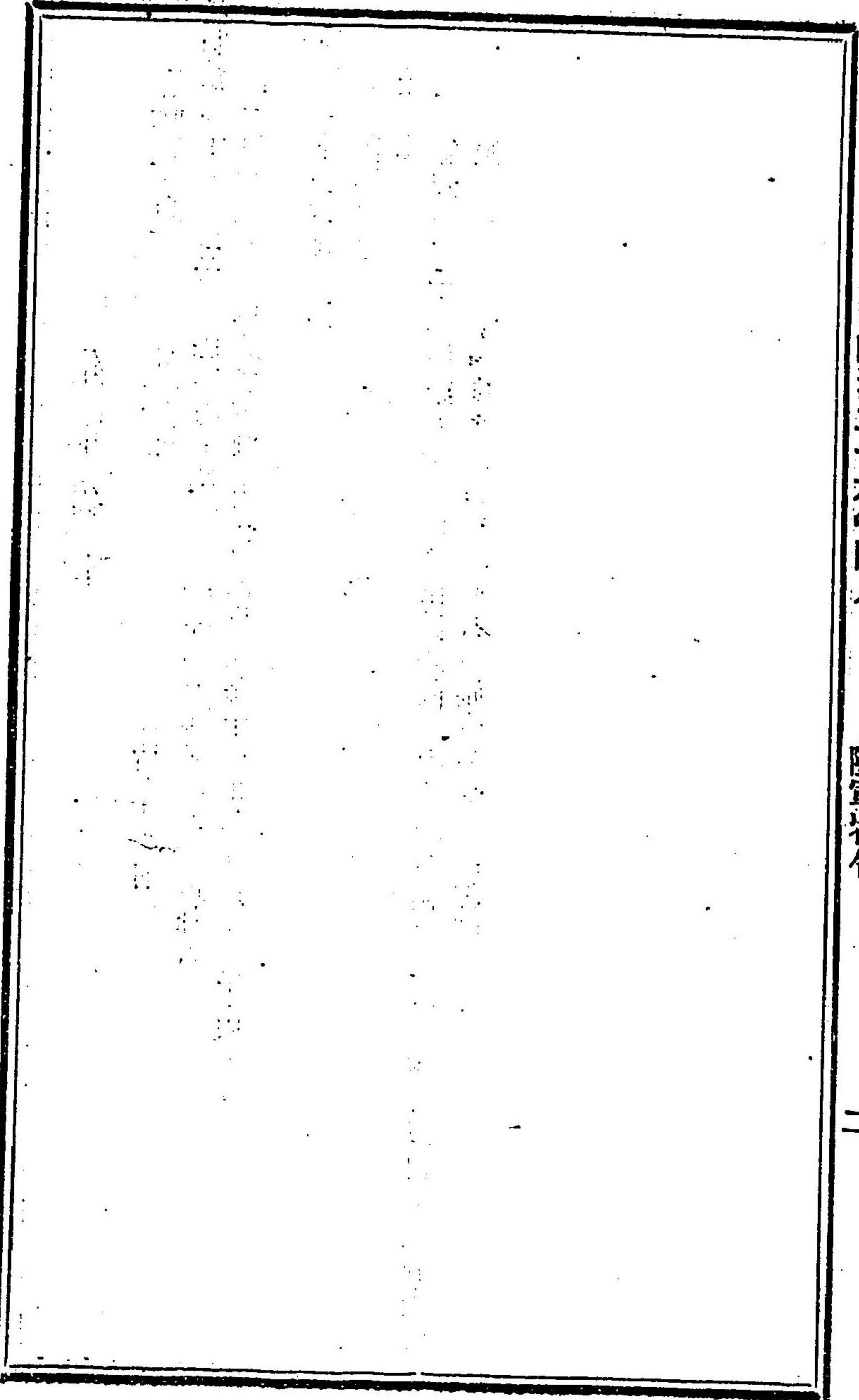
陸軍省令

一

明治二十六年四月

陸軍省令

二



○司法省令

○〔司法省〕 第四號

四月五日

辯護士職服左ノ圖表ノ通定ス

辯護士職服表

帽		上衣	
地飾	式色	地飾	式色
黒雲紋 雜形第一圖	黒絲ヲ以テ縫著ス	黒唐草 雜形第二圖	白絲ヲ以テ縫著ス

(圖ハ畧)

○〔司法省〕 第五號

四月十日

辯護士名簿登録規則左ノ通相定ス

辯護士名簿登録規則

第一條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ登録請求書ニ辯護士法第十條ノ手数料金額ニ相當
 スル登記印紙ヲ貼付シ所屬地方裁判所檢事局ヲ經由シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可
 登録換ナ爲ストキモ亦同シ

明治二十六年四月

司法省令

- 第二條 地方裁判所檢事局ニ於テ登録請求書ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ辯護士法第一條乃至第六條ノ要件ヲ調査シ意見ヲ付シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ
- 第三條 辯護士名簿ノ登録ハ司法大臣ノ命令ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス登録ノ取消ハ辯護士ノ請求ニ因リ又辯護士死去シタルトキハ辯護士會長ノ申告ニ因リ又辯護士法第五條ニ該當シ又ハ除名セラレタル者アルトキハ受訴裁判所檢事ノ通知ニ因リ地方裁判所檢事局ニ於テ之ヲ爲ス
- 第四條 辯護士名簿ニハ左ノ諸件ヲ記入ス可シ
 - 一 辯護士ノ族籍氏名年齢
 - 一 登録ノ年月日
 - 一 辯護士會加入ノ年月日
 - 一 事務所
 - 一 懲戒
- 第五條 地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ其登録ノ番號及年月日ヲ司法大臣ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知ス可シ
登録ヲ取消シタルトキモ亦同シ
- 第六條 辯護士名簿ニ登録ヲ爲シタルトキ又ハ登録ヲ取消シタルトキハ司法大臣ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第七條 辯護士會長ハ辯護士會ニ加入シタル者ノ氏名及加入ノ年月日ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ届出ツ可シ

司法省令第五號參照

法律第七號辯護士法(明治二十六年三月四日官報)抄録

- 第二條 辯護士ヲラムト欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス
 - 第一 日本臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト
 - 第二 辯護士試験規則ニ依リ試験ニ及第シタルコト
 - 第三條 辯護士試験ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム
 - 第四條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得
 - 第一 判事檢事タル資格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其ノ請求ニ因リ登録ヲ取消シタル者
 - 第二 法律學ヲ修メタル法學博士、帝國大學法律科卒業生、舊東京大學法學部卒業生、司法省舊法學校正則部卒業生及司法官試補タリシ者
 - 第五條 左ニ掲クル者ハ辯護士タルコトヲ得ス
 - 第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 第二 不敬罪、偽造罪、偽證罪、賄賂罪、誣告罪、竊盜罪、詐欺取財罪、費消罪、贓物ニ關スル罪、遺失物埋藏物ニ關スル罪、家資分散ニ關スル罪及刑法第七十五條同第二百六十條同第二百八十二條同第二百八十六條同第二百八十七條同第三百六十條ニ記載シタル定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
 - 第三 公權停止中ノ者

第四 破産若ハ家資分故ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼スルコトヲ得ス但シ帝國議會議員、府縣會常置委員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

第十條 登錄ヲ請フ者ハ登録手数料トシテ金二十圓ヲ納ム可シ
他ノ地方裁判所ニ登録換テ爲ストキハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

○〔司法省〕

第六號

四月十日

辯護士法施行ニ付辯護士會設立ノ手續ハ舊代言人組合ニ於テ之ヲ取扱フ可シ

○〔司法省〕

第七號

四月二十五日

明治二十三年(十月)司法省令第八號第十條第三項中「新聞紙ナキトキハ」ノ下ニ「所轄地方裁判所管内ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ公告ヲ爲シ又ハ」ノ二十九字ヲ加フ

司法省令第七號參照

司法省令第八號(明治二十三年十月二十九日)

第十條 公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

公告ヲ爲ス可キ新聞紙ハ登記所所在地ニ於テ發行スルモノ若シ其地ニ於テ發行スルモノナキトキハ登記所ヲ管轄スル區裁判所所在地ニ於テ發行スルモノタル可シ

若シ其地ニ於テ發行スル新聞紙ナキトキハ左ノ場所ニ揭示シテ公告ニ代ユ可シ

第一 區裁判所ノ揭示場

第二 其地ニ於ケル人民群集ノ場所

登記所ハ新聞紙發行人ト一曆年ノ間商業登記ノ公告ヲ委託スル約定ヲ爲シ豫メ其旨ヲ公告シ置ク可シ

○〔司法省〕

第八號

四月二十五日

商法第二百二十六條第二項ニ依リ調書ノ謄本ヲ求ムル者ハ其用紙一枚ニ付金拾錢ノ割合ヲ以テ登記印紙ヲ用ヒ其手数料ヲ納ム可シ但一行二十字詰二十行以下十一行以上ハ一枚トシ十行以下ハ半枚トス

司法省令第八號參照

法律第三十二號商法(明治二十三年四月二十六日官報)抄錄

第二百二十六條 検査官吏ハ検査ノ顛末及ヒ其面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス

調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付與シ又株主及ヒ其他ノ者ヨリ手数料ヲ納ムルトキハ其求ニ應シテ之ヲ付與ス

明治二十六年四月

司法省令

六

○文部省訓令

四月十七日

○〔文部省〕

第三號

北海道廳 沖繩縣

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ明治二十七年(三月)文部省訓令第一號ニ依リ每年度豫算調書ヲ差出スヘシ

文部省訓令第三號參照

文部省訓令第一號(明治二十六年三月二十三日)

府縣沖繩縣ヲ除ク

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ明治二十七年(三月)文部省訓令第一號ニ依リ每年度豫算調書ヲ差出スヘシ

明治何年度小學校教員恩給國庫給與金豫算調書

一金若干
右ハ市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條第二項及第三項ニ依リ前々年度即チ明治何年度ニ於テ實收シタル納金額若干ノ四分ノ一ニ當ル

明治二十六年四月

文部省訓令

一

明治二十六年四月

文部省訓令

二

右ノ通ニ候也

年 月 日

文部大臣宛

何府縣知事 氏 名 印

○農商務省令

四月十二日

○〔農商務省〕第九號

明治二十四年(八月)農商務省令第十一號度量衡法施行規則中左ノ通改正ス

第三十五條第二項「免許狀」ノ日附ヨリ」及第四十二條第二項「下付」ノ日ヨリ」ヲ「受領ノ日ヨリ」ト改ム

農商務省令第九號參照

農商務省令第十一號度量衡法施行規則(明治二十四年八月十九日)抄録

第三十五條第二項

免許狀ヲ受領シタルトキハ免許狀ノ日附ヨリ三十日以内ニ明治二十四年勅令第百七

十七號第十一條ノ身元保證金ヲ納ムヘシ

第四十二條第二項

繼續營業者ハ第三十七條ノ手續ニ依リ繼續免許狀下付ノ日ヨリ三十日以内ニ身元保

證金ヲ納ムヘシ

明治二十六年四月

農商務省令

一

○農商務省訓令

○〔農商務省〕第七號

四月十二日

農事試驗場

農事試驗場處務規程左ノ通相定ム

農事試驗場處務規程

第一條 農事試驗場ハ左ノ事項ニ付農産ノ増殖改良ヲ圖ルヘシ

- 一 農作物及牧草種類ノ選擇
 - 二 撰種
 - 三 耕耘
 - 四 栽植
 - 五 肥培
 - 六 耕地ノ改良
 - 七 收穫及貯藏ノ方法時期
 - 八 農産物製造ノ方法
 - 九 農具
 - 十 植物病蟲害ノ驅除豫防
 - 十一 有益蟲ノ保護繁殖
 - 十二 家畜家禽ノ飼育肥膩
 - 十三 巡回講話
 - 十四 種苗ノ配付
 - 十五 土質種子肥料飼料等ノ分析鑑定
- 第二條 農事試驗場長ハ官制ノ定ムル所ニ隨ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第三條 支場長ハ場長ノ指揮監督ヲ受テ支場全般ノ事務ヲ處理スヘシ
- 第四條 場長又ハ支場長事故アルトキハ所部ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第五條 場長又ハ支場長ハ所部官吏ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第六條 場長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上場中處務細則ヲ設クルコトヲ得

第七條 本大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スヘキ事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

第八條 場長ハ試験ノ順序方法及其分任擔當ヲ定メ農務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 試験成績ハ各擔任者ニ於テ試験終了ノ日ヨリ三十日以内ニ本場ハ場長ニ支場ハ支場長ニ報告スヘシ

第十條 場長ハ試験成績ヲ査閲シ二十日以内ニ場長ニ報告スヘシ

第十一條 農談會品評會共進會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ場員ノ出張巡回ヲ申出ツル者アルトキハ本場ニ於テハ場長之ヲ許否シ支場ニ於テハ其出張ノ日數十日ヲ超ユルモノハ場長ノ指揮ヲ受ケ其旨ハ支場長之ヲ許否シ其旨ヲ場長ニ報告スヘシ

第十二條 前條ニ於ケル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ其旨ヲ本大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 場長ハ毎年四月中前年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル本場及支場員ノ出張巡回ノ日數度數場所及理由ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第十四條 分析鑑定ノ求ニ應ジ其結果ヲ依頼者ニ通知スルトキハ場長又ハ支場長ハ各其

擔任者ト共ニ通知書ニ署名スヘシ

第十五條 農事ニ關スル質問ハ場長又ハ支場長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ應答スヘシ

第十六條 本場及支場ニ於テハ各六名以内ノ見習生ヲ入場セシムルコトヲ得見習生ノ費用ハ自辦タルヘシ

見習生ノ入場ニ關スル規定ハ場長之ヲ定ムヘシ

○〔農商務省〕 第八號

四月二十一日

大林区署

明治二十六年度森林經費科目左表ノ通心得ヘシ

農商務省所管歲出森林經費科目表

經常部			
林区署費	項	目	節
	俸給及諸給	奏任俸給	

明治二十六年四月

農商務省訓令

六

	通運信 搬費	郵便電信料
	運搬費 保險料共	使賃
	被服費	
	標柱費	
	雜費	
	寫字料 圖畫共	
	諸謝金	
	家屋其他借料	
	廣告料	
	諸手數料	
	賄費	
	舟車馬類雇賃	
	道路疏水等手當	
	雜品費	
	林產物保管料	
	訴訟費	
	損害賠償	
造林及林產物處理費	造林費	

	備人料	
	器具器械費	
	運搬費 保險料共	
	種苗購買費	
	肥料	
	家屋其他借料	
	雜品費	
	苗圃修繕	
	林產物處理費	
	備人料	
	備夫手當	
	損害手當	
	器具器械費	
	筆紙墨文具	
	消耗品	
	被服費	
	郵便電信料	
	運搬費 保險料共	
	諸手數料	
	賄費	
	慰勞酒饌	

明治二十六年四月

農商務省訓令

七

明治二十六年四月

農商務省訓令

十

○〔農商務省〕 第九號

四月二十八日

水産調査所

水産調査所處務規程左ノ通相定ム

水産調査所規程

- 第一條 水産調査所ハ左ノ四部ニ分テ調査及試験事務ヲ分掌ス
- 第一部 水産動植物ノ調査並水産物繁殖ノ試験
- 第二部 遠洋漁業及漁具漁船漁法漁場ノ調査並漁撈試験
- 第三部 製鹽及水産物製造ノ調査並試験
- 第四部 水産物ノ販路、漁業經濟、統計並水産ニ關スル慣行ノ調査
- 第二條 各部ニ主任一人ヲ置ク部内ノ調査及試験事務ノ整理ニ從事ス
但本大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ更ニ各部ニ監督ヲ置クコトアルヘシ
- 第三條 水産調査所事務官ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第四條 事務官ハ事務整理ノ爲メ農商務大臣へ經伺ノ上處務細則ヲ設ケ所中處務ノ分掌ヲ命スルコトヲ得
- 第五條 事務官ハ水産調査委員會委員長ト協議シ左ノ事項ヲ處決スヘシ事務官委員長意見ヲ異ニスルトキハ農商務大臣ノ裁定ヲ請フヘシ
- 一 調査係員及試験係員ノ擔任事項
- 二 調査係員及試験係員ノ出張巡回
- 三 調査及試験ノ報告ニ關スル事項

四 委員ノ決議ニ依リ委任ヲ得タル事項

第六條 事務官事故アルトキハ委員中ノ農商務省高等官ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第七條 調査及試験ノ順序方法ハ本大臣ニ於テ指定シタル取調委員ノ評議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第八條 調査及試験ノ成績ハ各擔任者ニ於テ其結了ノ日ヨリ三十日以内ニ所屬部主任ヲ經由シテ事務官ニ報告スヘシ

第九條 各部主任ハ毎三月ニ部員ノ調査及試験ノ經過ヲ事務官ニ報告スヘシ

第十條 事務官ハ調査及試験ノ經過並ニ成績ヲ審査編纂シテ毎年二回農商務大臣ニ報告スヘシ

明治二十六年四月

農商務省令

十一

明治二十六年四月

農商務省令

十二

○内務省告示

第二十二號

四月十二日

○〔内務省〕

一冊

發行

大阪府大阪市東區谷町三丁目百三十二番邸寄留 岸本順太郎 發行
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

○〔内務省〕

第二十三號

四月二十六日

明治二十六年第二回醫術開業並藥劑師試驗舉行ノ地及ヒ期日左ノ通相定ム

醫術開業試驗

東京府下東京市

十月二日

京都府下京都市

十一月五日

長崎縣下長崎市

十月十五日

長崎市ニ於テハ齒科試驗ヲ舉行セス

藥劑師試驗

東京府下東京市

十一月二十七日

大阪府下大阪市

十一月二十五日

明治二十六年四月

内務省告示

一

○大藏省告示

○〔大藏省〕

第十二號

四月一日

明治二十五年(六月)法律第四號鐵道敷設法第四條ニ依リ鐵道公債第一回募集ノ總額及利子ノ割合應募日限等ヲ定ムル左ノ如シ

一鐵道公債第一回募集ノ總額ハ壹百萬圓トシ證書ノ價格ハ額面百圓ニ付金百圓トス但應募高需要ノ額ニ超過スルトキハ應募價格ノ高キモノヨリ順次算入シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム

一第一回鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス
一應募者ハ來ル四月十六日ヨリ同月二十日マテニ應募金額價格及住所姓名ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店へ申込ムヘシ

一應募額ニ對スル保證金ノ割合ハ證書額面百圓ニ付金拾圓トス
一 大藏大臣ハ來ル五月五日マテニ日本銀行ヲシテ各應募者ニ應募確定額ヲ通知セシムルニ付其高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ以テ第一期拂込金ニ振替タルモノヲ引去リタル跡金ノ拂込ハ額面百圓ニ付左ノ區別ニ依リ拂込ムヘシ

- 第二期 二十六年五月十六日ヨリ二十五日マテ 此拂込金拾圓
- 第三期 同六月十六日ヨリ二十五日マテ 此拂込金拾五圓
- 第四期 同七月十六日ヨリ二十五日マテ 此拂込金貳拾五圓
- 第五期 同八月十六日ヨリ二十五日マテ 此拂込金貳拾五圓

明治二十六年四月

大藏省告示

明治二十六年四月

大藏省告示

二

第六期

同九月十六日ヨリ二十五日マテ

此拂込金拾五圓

大藏省告示第十二號參照

法律第四號鐵道敷設法(明治二十五年六月二十一日官報)抄録
第四條 鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ

○(大藏省)

第十三號

四月十四日

一六分利付金祿公債未償還額八百參拾貳萬八千五百參拾圓

内

金百四拾貳萬四千百圓

二十六年年度計豫算ニ據リ償還

金六百九拾萬四千四百參拾圓

整理償還

一六分利付金札引換無記名公債未償還額百九拾五萬五千八百圓

内

金壹萬圓

二十六年年度計豫算ニ據リ償還

金百九拾四萬五千八百圓

整理償還

右本月三十日悉皆償還ス但本償還ニ對シテハ元金ノ代リニ整理公債證書ヲ交付セス

一四分利付新公債貳百萬圓

一五分利付金祿公債壹萬圓

右二十六年年度計豫算ニ據リ償還ノ爲メ本月中抽籤執行ス

但抽籤ノ都合ニ依リ償還額ニ多少ノ減額アルヘシ

○(大藏省)

第十四號

四月二十八日

一整理公債額面貳百七萬千六百圓

但發行價格證書額面百圓ニ付金百四圓八拾貳錢トス

右整理公債條例第六條第二項ニ據リ本月二十七日發行セリ

大藏省告示第十四號參照

勅令第六十六號整理公債條例(明治十九年十月十六日)抄録

第六條第二項

大藏大臣ハ前項ノ手續ニ據ラス市場ノ時價ニ準シ整理公債證書ノ價格ヲ定メ臨時之
ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルコトヲ得但發行シタル證書ノ金額及價格ハ大藏大臣
其發行ノ翌日之ヲ告示スヘシ

○(大藏省)

第十五號

四月二十九日

根室本金庫所屬熊牛支金庫ヲ本月二十日川上郡熊牛村字標茶へ移ス

明治二十六年四月

大藏省告示

三

○陸軍省告示

○〔陸軍省〕

第五號

四月二十四日

明治二十六年徵集ス可キ近衛海軍新兵左表ノ通配賦ス

明治二十六年近衛海軍新兵要員配賦表

備	計	師管						兵種						計							
		第六	第五	第四	第三	第二	第一	歩	騎	砲	工	輜	重		縫	工	靴	工	水	火	夫
一	一九三一	九四	二八	七四	六〇	一八〇	三三	一七	三六	九七	二九七	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
二	一九三二	九四	二八	七四	六〇	一八〇	三三	一七	三六	九七	二九七	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
三	一九三三	九四	二八	七四	六〇	一八〇	三三	一七	三六	九七	二九七	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
四	一九三四	九四	二八	七四	六〇	一八〇	三三	一七	三六	九七	二九七	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇

明治二十六年四月

陸軍省告示

一

明治二十六年四月

陸軍省告示

二

考

各鎮守府海兵團ニ編入ス但第一師管ノ水兵二十四名ハ吳第五師管ノ水兵二十四名ハ佐世保鎮守府海兵團ニ編入ス

○海軍省告示

○(海軍省)

第二號

四月八日

海軍兵學校將校生徒十八名召募候ニ付本年八月年齡滿十六年以上二十年未滿(明治六年十月ヨリ同十年九月マテ出生ノ者)ニシテ出身志願ノ者ハ左ノ志願者心得ニ依リ本年六月十五日限リ海軍兵學校長ニ出願スヘシ
検査ノ場所ハ東京及廣島ニ設ケ東京ニ在リテハ本年八月一日ヨリ廣島ニ在リテハ同月三日ヨリ開始ス

海軍兵學校將校生徒志願者心得

第一條 海軍兵學校將校生徒ト爲ラントスルモノハ左ノ諸項ヲ心得出願スヘシ

第一項 生徒ハ年齡滿十六年以上二十年未滿ニシテ海軍將校タラシコトヲ志願スル者ニ就キ身體學術ヲ検査シ合格シタル者ヨリ選抜シテ採用ス

第二項 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用スルコトナシ

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ヘサル者

第三項 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

明治二十六年四月

海軍省告示

二

第四項 生徒ハ情願ヲ以テ免スルコトナシ

第五項 生徒ハ左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ免ス

- 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屬訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
- 二 試験ノ成績屢ニ不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
- 三 傷疾疾病等ニ罹リ卒業ノ目的ナキ者

第二條 志願者ハ身元確實ナル者ニ名ヲ以テ保證人ト爲スヘシ

第三條 志願者ハ其願書(第一號書式)ニ誕辰證書(第二號書式)及履歷書(第三號書式)ヲ

添ヘ府縣知事(寄留者ハ其地ノ府縣知事)ノ奥書蓋印ヲ受ケ海軍兵學校長ニ送付スヘシ

第四條 志願者ニハ左ノ検査ヲ受ケシム但身體検査ニ不合格ノ者ハ學科検査ヲ行ハス

第一項 身體検査

遺傳病其他身丈體重胸圍ノ不足或ハ疾病等ニ依リ體格ニ適合セサル者ハ大略左ノ如

一 發作性ノ疾病アル者

發作性ノ疾病トハ總テ時々發歇スル處ノ病ニテ其類例左ノ如シ

癲癇、胃癱、喘息、眩暈、心悸亢進(聊カノ事ニ驚キ易ク僅ノ勞働等ニ因テ忽チ胸ノ動悸亢進短息等ヲ發シテ容易ニ鎮靜セサル者)癩癧質斯性關節痛(氣候ノ變換誘發シテ手足ノ關節頸背或ハ腰部等ニ痛ヲ發スル病)間歇性頭痛(天氣ノ變換ニ誘發シ自己ノ感覺ニテ豫メ天氣ノ晴雨ヲ卜知スルコトアル者)

二 狹窄症內痔症其他自己識得スル疾病及遺傳ノ疾病アル者

狹窄症トハ眼耳鼻口咽喉食道尿道肛門等先天性或ハ疾病或ハ外傷ノタメ狹小トナリタル症ヲ云フ

癩病(父母兄弟ハ勿論其血統中)肺勞、咯血、吐血、癩狂、癩癧、腺病(瘰癧)中風、全身梅毒

三 宿痼舊創ニヨリ患フル處アル者

宿痼トハ種々ノ病痼ニシテ容易ニ癒ヘサルモノ、類ヲ云ヒ茲創トハ打撲挫傷斷骨創痍等ノ痕痕アリテ勞働或ハ寒濕ニ觸レ疼痛或ハ麻痺痺急等ヲ發シ其部ノ運營不充分ナル症ナリ

四 身丈五尺一寸ニ達セサル者

五 體重十二貫ニ達セサル者

六 胸圍二尺五寸三分ニ達セサル者

七 胸廓擴張一寸八分ニ達セサル者

但十七年以下ニシテ身丈體重胸圍等些少ノ不足アルモ無病健全ニシテ發育ノ目的アル者ハ検査ノ上適合スルコトモアルヘシ胸圍ヲ測定スルニハ尺度ヲ横乳線ト平行圍繞シ呼吸ノ中間ヲ取り測定ス

八 發育 身丈體量胸圍等ニ不足ナキモ爾他ノ發育不全ニシテ身體薄弱ノ者或ハ

年齡不相應ニ身丈ノミ發育シ身丈ニ比スレハ體重輕ク頸長ク胸廓扁平勞瘵質ノ徵アル者

九 皮膚 慢性皮膚病、腋臭、知覺麻痺、知覺過敏、內部ノ疾患ニ因テ施ス處ノ著キ

- 發泡打膿ノ痕跡、頭面部巨大ノ癩痕醜形ヲ呈スル者其他各部ノ癩痕巨大ナラサルモ骨ニ密著シテ動搖セサル者、著シキ瘦體、肥大、脂肪過多、體毛非常ノ過多、癩風、母斑面部ニアリテ著シク醜形ヲ呈スル者
- 十 眼目 眼瞼ノ畸形眼目不透明ニシテ健體ノ徵ナキ者、失明、淚管癩、眼瞼下垂、睫毛內刺、怒肉、反睛、臉裡顆粒、角膜諸病、視力二十尺ノ距離ニ於テ一般ニ人ノ視定スヘキ小形ヲ見認メサル者及識色ハ綠藍黃赤等各種ノ色ヲ識別メ能ハサル者
- 十一 耳 内外聽道ノ疾病殊ニ鼓膜穿孔、著シキ耳漏、片耳若クハ兩耳ノ耳聾或ハ低聲ヲ聽取シ難キ者
- 十二 鼻 鼻ノ畸形鼻骨軟骨ノ疾病鼻孔狹窄閉塞ノ者
- 十三 口、咽喉 舌唇口蓋或ハ扁桃腺ノ著シキ疾病、畸形、齒牙不足、齒牙及齒齦ノ不良、尖荷兒陪替、全身病ニ起因スル呼吸惡臭アル者
- 十四 手足 四肢ノ著シキ不同内彎外彎著シキ扁平足或ハ骨折筋力ノ薄弱、指趾ノ缺損或ハ畸形、下肢部脈張スル者
- 十五 胸腹 胸腹ノ著シキ扁平(肺實質ノモノ)畸形、胸骨肋骨骨傷、心悸亢進(著シキモノ)心肺ノ疾患、呼吸短息、慢性咳嗽、聲音嘶啞、肋膜炎後ノ障害、腹壁腫脹膨滿、脫膈、腹輪ノ薄弱或ハ膨脹、内臟ノ諸疾患アル者
- 十六 背腰 頸、背、腰椎及骨盤ノ諸疾患アル者
- 十七 會陰 內痔、外痔、痔瘻、コンナロマダ、肛門鱗裂、肛疝等アル者

第二項 學科検査

漢 白文訓點 史類中ヨリ數節ヲ出シ訓點ヲ施サシム
作 文 記事或ハ尺牘中 一題 眞片假名交リ文ヲ作ラシム

算 術 參考書ロツク氏スミス氏等ノ算術書

代 數 四術ヨリ多元二次方程式ニ至ル其外開法、自乘法、指數法、不盡根數比、比例、參考書チアールス、スミッス氏トッドハンター氏等ノ代數書

學 數 平面幾何 アツンシエーシヨン、シガメドリー或ハ菊池理學博士著英文幾何學卷ノ一終リ迄

英 文 法 スウ非ントン小文典位ニ熟スルヲ要ス

和文英譯 邦文數節ヲ英譯セシム

英文和譯 字書ヲ用ヒス英文ヲ和譯セシム但難澁ナル文字ハ英文ニテ字義ヲ書メタル者ヲ與フ

會 話 英文凡ソ一百字ヲ徐讀シ之ヲ書取ラシム
但徐讀一回ニ止ル
問ヲ發メ答辯セシム

十八 生殖器

舉丸諸病例ハ精系靜脈怒張、片舉丸若クハ兩舉丸ノ下降セサル者、癩疾、尿道狹窄、下疳ノ癩痕、眞包莖(但包莖ハ志願前治療ヲ加ヘ妨礙ナキ者ハ此限ニアラス)小便失禁、尿道瘻孔等ノ者

十九 精神及言語

精神痴鈍或ハ異狀、白痴、癩癩、言語妨礙或ハ咽吃等

- 一 自己ノ書類ハ一切携帯スルヲ禁ス但要用ノ筆墨硯小刀ハ之ヲ持參スルモノトス
- 二 問題ハ會話ヲ除ク外總テ筆答トス
- 三 數學ハ原理ト應用ノ二種トス
- 四 問題ノ文意等一切質問スルヲ禁ス
- 五 答紙ニ塗抹多ク字格等明瞭ナラス又數學ニ於テ運算解式ナク答ノミヲ記スルモノハ點ヲ與ヘス
- 六 答ハ必ス時限内ニ出スモノトス時限過クルノ後ハ之ヲ出スヲ得ス
- 七 答紙ヲ出スマテ其席ヲ離ルヽヲ得ス
- 八 検査場ニ於テハ一切他人ト言語ヲ交フルヲ禁ス
- 九 三學科中白文訓點、代數、英文和譯ニ各百分ノ三十五以上ヲ得而シテ各科ノ點數百分ノ四十以上ヲ得ル者ヲ及第トス
- 第五條 志願者ハ前以テ地方醫師ノ下検査ヲ受ケ置キ身體検査ニ出ツル時身體検査證(第四號書式)ヲ携フヘシ
- 第六條 志願者ハ身體検査ニ出ツルトキ新ニ撮影セル寫真一葉ヲ携フヘシ
- 第七條 志願者何等ノ事故アリト雖モ之カ爲メ時日ヲ延ハシ検査ヲ爲スコトナシ
- 第八條 志願者検査地ヘノ往復竝ニ滞在費等ハ一切自辨タルヘシ
- 第九條 生徒ヲ命スルト否トハ本人願書ニ與書シタル府縣廳ヲ經テ保證人ニ達ス
- 第十條 生徒ヲ命スヘキ者ニハ本人願書ニ與書シタル府縣廳ヨリ本校マテノ里程ニ應シ

- 相當ノ旅費ヲ給ス
- 第十一條 生徒ヲ命セラレタル者ハ誓約書第五號書式ニ署名捺印シ海軍ニ從事シ決シテ他志ナキヲ表スヘシ
- 第十二條 生徒ハ入校ノ日ヨリ修學ノ費用及被服食料等悉皆官費トス
- 第十三條 第一條第五項ノ一二ニ依リ生徒ヲ免シタル者ニハ既ニ給與シタル手當金一日二十錢宛ヲ償還セシム
- 第一號書式 用紙美濃紙二ツ折一通
- 海軍兵學校將校生徒願

海軍出身志願ニ付御検査ノ上兵學校將校生徒ニ御採用被下度御許可入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守可申ハ勿論拙者身上ノ儀ハ何事ニ限ラス身元保證人ニテ引受可申候依テ保證人連署此段奉願候也

但東京(廣島)ニ於テ御検査相成度此段申添候也

事故アリテ受檢地ノ變換ヲ望ムトキハ其旨兵學校長ニ届出ツヘシ

年號月日

戸主(誰子弟) 姓 名 印

明治何年何月 何年何箇月

前書相違無之候也

海軍兵學校長姓名殿

第二號書式 用紙美濃紙ニツ折一通

誕辰證書

保證人

何府縣華士族平民

何國何郡市區何町村何番地

姓名印

保證人

何府縣華士族平民

何國何郡市區何町村何番地

姓名印

府縣知事 姓名印

何府縣華士族平民 姓名

誕辰 何府縣何國何郡市區何町村ニ於テ何年何月何日生

右ノ通相違無之候也

年號月日

保證人 姓名印

前書保證候也

年號月日

保證人 姓名印

(本籍ノ市區町村長ニ限ル) 何府縣何國何郡市區何町村 市區町村長 姓名印

第三號書式

履歷書

何府縣華士族平民 戸主或ハ何某男又兄弟伯叔甥附籍 姓名

一住所 (國郡市區町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記スヘシ) 姓名

一生長ノ地名 (同上) 姓名

一祖父母兄弟姊妹名 (養子ハ養實共ニ之ヲ記スルナレハ亡ト記シ父兄位勳アルハ存亡共ニ之ヲ記スヘシ)

一教育ヲ受ケタル學科年月校塾師名等

一職業技藝等

一官職會社等ノ職務ニ從事シタル事

一賞罰

右ノ通相違無之候也

明治二十六年四月

海軍省告示

十

年號月日

保證人 姓名 保證人 姓名 名印

第四號書式 用紙美濃紙ニツ折一通 身體検査證

何府縣華士族平民

姓

名

右精細検査候處其體格海軍兵學校將校生徒志願者心得第四條第一項ニ抵觸セサル者ト
思考候也

年號月日

何府縣何郡市區何町村何番地

検査醫 姓

名印

第五號書式一通

誓約書

拙者海軍出身志願ニ依リ今般兵學校將校生徒被命候ニ付テハ自今御規則ヲ嚴守シ修業
中ハ私事ヲ顧ミヌ卒業ノ後ハ誓テ帝國海軍ニ從事可仕候依テ誓約如件
年號月日

海軍兵學校將校生徒 姓

名印

○〔海軍省〕 第一號

四月一日

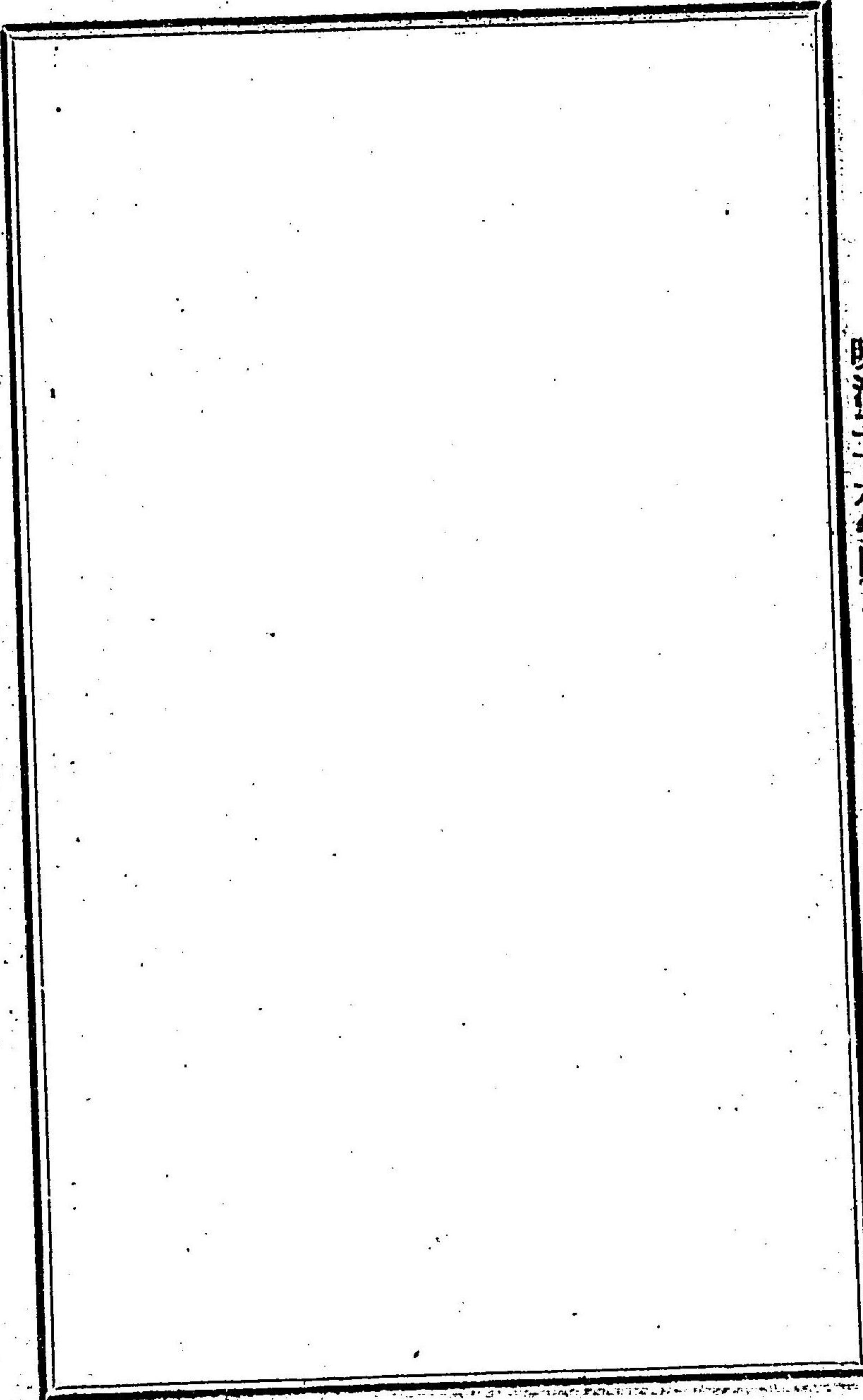
明治二十六年海軍志願兵徵募兵員左ノ通定ム

海軍志願兵徵募區	所管鎮守府	水	兵信號兵	火	夫木	工鍛	治看病	夫廚	夫	計
第一	横須賀鎮守府	一六八	一七	七六	七	九	一七	三九	三三三	
第二	吳鎮守府	二七八	一〇	一〇六	一四	一八	一四	三八	四七八	
第三	佐世保鎮守府	一五八	一七	三八	七	一四	九	三七	二八〇	
合	計	六〇四	四四	二一〇	二八	四一	四〇	一四五	一〇九一	

明治二十六年四月

海軍省告示

十一



○司法省告示

○〔司法省〕

第十一號

四月一日

安濃津地方裁判所管内松阪區裁判所廳舎燒失ニ付同所公園内ニ假廳ヲ設ク

○〔司法省〕

第十二號

四月七日

浦和地方裁判所及浦和區裁判所廳舎新築落成ニ付本月四日假廳ヨリ移轉ス

○〔司法省〕

第十三號

四月八日

東京地方裁判所管内下谷區裁判所本年三月二十八日火災ニ罹リ左ノ各町地所建物登記簿及(明治十七年十月ヨリ同二十年一月マテ)船舶書入質記載簿燒失シタルヲ以テ該各町地所建物等ニ付キ賣買讓與質入書入等ノ登記又ハ公證ヲ受ケタルモノハ本年四月三十日限リ更ニ下谷區裁判所ニ登記ヲ願出ツ可シ但此登記ニ付テハ手数料ヲ納ムルニ及ハス但期限内ハ燒失ニ依リ更ニ登記スヘキモノ、外各町地所建物等ノ登記ヲ停止ス

淺草區旅籠町二町目地所登記簿	全部
同 諏訪町 地所登記簿	全部
同 壽町 地所登記簿	全部
同 小島町 地所登記簿	全部
同 今戸町 地所登記簿	全部
同 龜岡町三町目地所登記簿	全部

神田區松富町	地所登記簿	全部
同 松住町	地所登記簿	全部
同 通新石町	地所登記簿	全部
同 富松町	地所登記簿	全部
同 淺草區黒船町	地所登記簿	全部
同 千束町一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町二十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町三十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町四十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町五十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町六十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町七十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町八十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十一丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十二丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十三丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十四丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十五丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十六丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十七丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十八丁目	地所登記簿	全部
同 千束町九十九丁目	地所登記簿	全部
同 千束町一百丁目	地所登記簿	全部

明治十七年十月ヨリ同二十年一月マテ船舶書入質記載簿(即チ公證簿)一冊
但淺草區役所ヨリ引繼テ受ケタルモノ

○〔司法省〕 第十四號 四月十一日
岐阜地方裁判所及岐阜區裁判所聯合新築落成ニ付本月二日假廳ヨリ移轉ス

○〔司法省〕 第十五號 四月十二日
金澤地方裁判所管内大聖寺區裁判所ニ於テ來ル五月一日ヨリ裁判事務ヲ取扱フ

○〔司法省〕 第十六號 四月十三日
安濃津地方裁判所管内松阪區裁判所本年三月三十日火災ニ罹リ飯野郡榑田村大字榑田

(自二十年一月至二十五年二月)船舶登記簿及左ノ各町村舊公證簿燒失シタルヲ以テ該各
町村地所建物等ニ付キ賣買讓與質入書入等ノ登記又ハ公證ヲ受ケタルモノハ本年四月十
三日ヨリ同年五月十二日限り更ニ松阪區裁判所假廳ニ登記ヲ願出ツ可シ但此登記ニ付テ
ハ手數料ヲ納ムルニ及ハス

右期限中ハ燒失ニ依リ更ニ登記スヘキモノ、外該町村地所建物等ノ登記ヲ停止ス

飯野郡榑田村大字榑田	自二十年二月至二十五年二月	船舶登記簿	一冊
飯高郡松阪町各大字		舊公證簿全部	
同 郡神戶村各大字		舊公證簿全部	
同 郡鈴止村各大字		舊公證簿全部	
同 郡港村各大字		舊公證簿全部	
同 郡松江村各大字		舊公證簿全部	
同 郡伊勢寺村各大字		舊公證簿全部	
同 郡松尾村各大字		舊公證簿全部	
同 郡茅廣江村各大字		舊公證簿全部	
同 郡大河内村各大字		舊公證簿全部	
同 郡花岡村各大字		舊公證簿全部	
同 飯野郡射和村各大字		舊公證簿全部	
同 郡神山村各大字		舊公證簿全部	
同 郡機殿村各大字		舊公證簿全部	
同 郡西黒部村各大字		舊公證簿全部	
同 郡榑田村各大字		舊公證簿全部	
同 郡朝見村各大字		舊公證簿全部	
同 郡漕代村各大字		舊公證簿全部	

但漕代村大字ノ内左ニ記載スル分ハ現存ス
 一地所建物賃入書入公證簿
 一同上
 一同上
 一同上
 一同上
 一同上

明治十八年分元目田村分
 明治十八年分元伊勢場村分
 明治十八年分元早馬瀬村分
 明治十八年分元法田村分
 自明治八年至同十年元稻木村分
 自明治九年一月至同十一年十一月元同村分
 明治十五年自一月至三月元同村分
 明治十二年自一月至十二月元横地村分外三箇
 村分即法田、伊勢場、目田

○司法省

第十七號

四月十三日

本年(四月)當省第十三號告示中左ノ各町登記簿ハ火災ニ罹ラサルコトヲ發見シタルニ依
 リ該各町ニ付テハ之ヲ取消ス

淺草區旅籠町二町目地所登記簿	全部
同 區今戸町 地所登記簿	全部
同 區龜岡町三町目地所登記簿	全部
同 區黒船町 建物登記簿	全部
神田區通新石町 地所登記簿	全部

司法省告示第十七號參照

明治二十六年(四月八日)司法省告示第十三號ハ東京地方裁判所管内下谷區裁判所本年
 三月二十八日火災ニ罹リ地所建物登記簿及船舶書入質記載簿ノ内燒失シタルニ依リ更
 ニ登記願出等ノ件ナリ

○司法省

第十八號

四月十三日

鳥取地方裁判所管内滑口區裁判所廳舎落成ニ付本月三日假廳ヨリ移轉ス

○司法省

第十九號

四月十七日

山口地方裁判所管内山口區裁判所三田尻出張所裁區裁判所生雲中出張所出張裁判ノ儀當
 分開廷セス

○司法省

第二十號

四月十七日

鳥取地方裁判所管内滑口區裁判所ニ於テ來ル五月一日ヨリ民事裁判事務ヲ取扱フ

○司法省

第二十一號

四月十九日

静岡地方裁判所管内下田區裁判所廳舎落成ニ付假廳ヨリ移轉ス

○司法省

第二十二號

四月二十二日

千葉地方裁判所及千葉區裁判所廳舎新築落成ニ付本月十六日假廳ヨリ移轉ス

明治二十六年四月

司法省告示

六

○農商務省告示

○〔農商務省〕第二號

四月十一日

左ノ所ニ農事試驗場ヲ置ク

東京府北豐島郡瀧ノ川村大字西ヶ原

明治二十六年四月

農商務省告示

一

○農商務省告示

（以下文字模糊不清）

○遞信省告示

○〔遞信省〕 第一百十二號

四月七日

一貨幣封入郵便物受授見合印鑑 東第六五三號
但上野國藤岡郵便局へ下渡ノ分
右紛失ノ旨届出候條自今該印鑑ハ無効トス

○〔遞信省〕 第一百十三號

四月十日

來ル五月一日ヨリ左記各局へ電信爲替事務ヲ開設ス
越中國射水郡小杉郵便電信局
越中國婦負郡八尾郵便電信局
上野國利根郡沼田郵便電信局
上野國西群馬郡澁川郵便電信局
駿河國富士郡吉原郵便電信局
伊勢國鈴鹿郡龜山郵便電信局
下野國上都賀郡鹿沼郵便電信局
伊豆國賀茂郡松崎郵便電信局
近江國神崎郡能登川郵便電信局
近江國愛知郡愛知川郵便電信局
近江國伊香郡木ノ本郵便電信局
美濃國武儀郡桐洞郵便電信局
陸奥國西津輕郡鰐ヶ澤郵便電信局
美濃國武儀郡金山郵便電信局
陸奥國北津輕郡五所川原郵便電信局
備後國沼隈郡松永郵便電信局
備後國三次郡三次郵便電信局
安藝國高田郡吉田郵便電信局
安藝國高宮郡可部郵便電信局
備後國御調郡三原郵便電信局
安藝國賀茂郡竹原郵便電信局

明治二十六年四月

遞信省告示

一

肥前國佐賀郡諸富郵便電信局
 肥前國藤津郡嬉野郵便電信局
 肥前國東彼杵郡早岐郵便電信局
 岩代國伊達郡掛田郵便電信局
 攝津國河邊郡伊丹郵便電信局
 武藏國南埼玉郡岩槻郵便電信局
 越後國中蒲原郡新津郵便電信局
 阿波國美馬郡脇町郵便電信局
 日向國東諸縣郡高岡郵便電信局
 陸前國黒川郡吉岡郵便電信局
 根室國野付郡別海郵便電信局

肥前國西松浦郡有田郵便電信局
 肥前國杵島郡小田郵便電信局
 岩代國河沼郡阪下郵便電信局
 攝津國豐島郡池田郵便電信局
 攝津國河邊郡尼ヶ崎郵便電信局
 渡島國松前郡吉岡郵便電信局
 羽後國由利郡驛越郵便電信局
 日向國兒湯郡高鍋郵便電信局
 下總國印旛郡木下郵便電信局
 豐前國宇佐郡長洲郵便電信局

○〔遞信省〕 第四百十四號

四月十日

來ル五月一日ヨリ福井、松山ノ兩市ニ左ノ郵便爲替取扱所ヲ開設ス

福井市尾上町	尾上町郵便爲替取扱所
松山市紙屋町	紙屋町郵便爲替取扱所

○〔遞信省〕 第四百十五號

四月十日

自今日本帝國ト南亞弗利加共和國トノ間ニ水液脂肪類商品見本ノ交換ヲ開始ス

○〔遞信省〕 第四百十六號

四月十一日

本月十五日限リ埼玉縣下北足立郡與野町郵便受取所同郵便貯金預所ヲ廢ス

○〔遞信省〕 第四百十七號

四月十五日

一小形船機關手技術免狀 第四百號 明治二十四年十一月二十四日登簿
 右者千葉縣平民齋藤三吉所有ノ處汽船第十一號通運丸ニ乗組執職中本年三月三十一日石川島造船所近傍ニ於テ上陸ノ際免狀流失ノ旨届出候條其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ニ可届出但該免狀ハ無効ニ屬ス

○〔遞信省〕 第四百十八號

四月十七日

來ル五月一日ヨリ豊後國日田郡豆田町大字豆田町ニ郵便受取所ヲ置キ豆田郵便受取所ト稱ス

○〔遞信省〕 第四百十九號

四月十七日

來ル五月一日ヨリ左記各局ニ郵便爲替及貯金事務ヲ開設ス
 岩代國信夫郡瀬上郵便局 讚岐國那珂郡本島郵便局
 播磨國加古郡土山郵便局

○〔遞信省〕 第四百二十號

四月十七日

來ル五月一日ヨリ讚岐國香川郡安原郵便局ニ郵便爲替事務ヲ開設ス

○〔遞信省〕 第三百二十一號 四月十七日
來ル六月一日ヨリ琉球國宮古島郵便局ニ郵便爲替及貯金事務ヲ開設ス

○〔遞信省〕 第三百二十二號 四月十七日

一貨幣封入郵便物受授見合印鑑 大第二一七號
但丹波國鶴ヶ岡郵便局へ下渡ノ分
右紛失ノ旨届出候條自今該印鑑ハ無効トス

○〔遞信省〕 第三百二十三號 四月十七日

廣島縣下安藝郡吉浦村字狩留賀ト同縣下安藝郡江田島村字先早瀬トノ間ニ海底電信線一條ヲ沈布シ左圖線條ノ左右各百間以內ヲ以テ該線路ト定ム (圖畧ス)

○〔遞信省〕 第三百二十四號 四月二十一日

本月三十日限り薩摩國出水郡山門野郵便局郵便貯金事務取扱ヲ廢止ス

○〔遞信省〕 第三百二十五號 四月二十一日

本月三十日限り鹿兒島市中町郵便受取所及同郵便貯金預所ヲ廢ス

○〔遞信省〕 第三百二十六號 四月二十二日

來ル五月一日ヨリ左ノ郵便受取所ニ於テ小包郵便ヲ取扱ハシム

國名 市郡名 受取所名

武藏國	東京市	日本橋區日本橋通郵便受取所
武藏國	東京市	日本橋區本石町四丁目郵便受取所
武藏國	東京市	日本橋區北新堀町郵便受取所
武藏國	東京市	日本橋區橋町郵便受取所
武藏國	東京市	淺草區元鳥越町郵便受取所
武藏國	東京市	淺草區黒船町郵便受取所
武藏國	東京市	淺草區新吉原揚屋町郵便受取所
武藏國	東京市	神田區三河町郵便受取所
武藏國	東京市	神田區神田五軒町郵便受取所
武藏國	東京市	神田區松田町郵便受取所
武藏國	東京市	神田區猿樂町郵便受取所
武藏國	東京市	神田區神田餅鳥町郵便受取所
武藏國	東京市	麴町區三番町郵便受取所
武藏國	東京市	麴町區下六番町郵便受取所
武藏國	東京市	芝區濱松町郵便受取所
武藏國	東京市	芝區櫻田本郷町郵便受取所
武藏國	東京市	下谷區南稻荷町郵便受取所
武藏國	東京市	下谷區下谷阪本町郵便受取所
武藏國	東京市	下谷區池ノ端仲町郵便受取所

明治二十六年四月

遞信省告示

六

武藏國	東京市	本所區本所相生町郵便受取所
武藏國	東京市	京橋區京橋弓町郵便受取所
武藏國	東京市	本郷區本郷森川町郵便受取所
武藏國	東京市	深川區洲崎辨天町一丁目郵便受取所
武藏國	南豊島郡	内藤新宿郵便受取所
攝津國	神戸市	北長狹通郵便受取所
攝津國	神戸市	榮町郵便受取所
攝津國	神戸市	兵庫湊町郵便受取所
攝津國	神戸市	東出町郵便受取所
攝津國	神戸市	新町郵便受取所

○〔遞信省〕 第四百一十七號 四月二十四日

來五月一日ヨリ山城國紀伊郡伏見町大字板橋二丁目伏見板橋郵便受取所ヲ同町大字南濱ニ移シ南濱郵便受取所ト改稱ス

○〔遞信省〕 第四百一十八號 四月二十五日

相模國鎌倉鐵道停車場電信取扱所ニ於テ本年五月一日ヨリ歐文電報モ亦發著共之ヲ取扱フ

○〔遞信省〕 第四百二十九號 四月二十六日

萬國郵便條約實施細目規則第四條各國貨幣比例表中「モーリシユス」(島)及管轄地ノ部左ノ通改正ス

「モーリシユス」	一「ルービー」	一「ルービー」
(島)及管轄地	ノ百分ノ十五	ノ百分ノ六
		ノ百分ノ三

○〔遞信省〕 第四百二十號 四月二十六日

明治二十六年(二月)遞信省告示第四十四號海外電報料金及諸手数料金表第四表本線路中「佛領ガイアナ」ノ項ヲ刪除シ「ウルグエー」ノ項ノ次ニ左ノ通追加ス (表略ス)

○〔遞信省〕 第四百二十一號 四月二十六日

來五月一日ヨリ三河國寶飯郡下地村郵便受取所ヲ下地町郵便受取所ト改稱ス

○〔遞信省〕 第四百二十二號 四月二十六日

來五月一日ヨリ阿波國海部郡小川郵便局ヲ同國同郡川上村大字神野へ移シ神野郵便局ト改稱ス

○〔遞信省〕 第四百二十三號 四月二十七日

來ル六月一日ヨリ左ノ郵便電信局郵便局ニ於テ小包郵便ヲ取扱ハシム

國名	局名	國名	局名	國名	局名
武藏	深谷	武藏	所澤	武藏	桶川
武藏	府中	武藏北多摩郡	小川	武藏	川越
				武藏	上尾

明治二十六年四月

遞信省告示

七

明治二十六年四月

遞信省告示

八

武藏 赤羽	武藏 鴻巣	武藏 川崎	武藏 保土ヶ谷
下總 市川	下總 船橋	常陸 石岡	常陸 茨戸
上野 伊香保	上野 富岡	上野 新町	上野 藤岡
上野 安中	上野 磯部	下野 横川	下野 矢板
下野 氏家	下野 今市	下野 石橋	下野 喜連川
下野 黒磯	磐城 矢吹	岩代 猪苗代	陸前 大河原
陸前 増田	陸前 松島	陸前 小牛田	陸前 涌谷
陸前 古川	陸前 若柳	陸前 佐沼	陸前 登米
陸中 前澤	陸中 郡山	陸中 沼宮内	陸中 水澤
陸中 黒澤尻	陸奥 小湊	陸奥 福岡	陸奥 三戸
陸奥 野邊地	陸奥 浪岡	駿河 黒石	甲斐 上野原
甲斐 猿橋	駿河 吉原	駿河 興津	遠江 金谷
遠江 中泉	尾張 前ヶ須	美濃 笠松	遠江 竹ヶ鼻
美濃 關	美濃 上有知	伊勢 久居	伊勢 龜山
伊勢 東富田	伊勢 桑名	伊賀 柘植	近江 水口
近江 草津	信濃 輕井澤	信濃 岩村田	信濃 屋代
越後 新井	攝津 伊丹	攝津 御影	攝津 茨木
播磨 加古川	備前 和氣	備後 三原	安藝 江田島
土佐 伊野	土佐 須崎	土佐 中村	肥前 武雄

肥前 伊万里

肥前 唐津

肥前 平戸

○〔遞信省〕 百三十四號

四月二十九日

來ル六月一日ヨリ左記各局ニ電信爲替事務ヲ開設ス

越後國中蒲原郡五泉郵便電信局
 越後國中蒲原郡村松郵便電信局
 尾張國知多郡大野郵便電信局
 磐城國田村郡新町郵便電信局
 石狩國樺戸郡月形郵便電信局
 紀伊國北牟婁郡長島郵便電信局
 能登國鳳至郡輪島郵便電信局
 羽前國西村山郡左澤郵便電信局
 羽前國西村山郡宮宿郵便電信局
 常陸國久慈郡太子郵便電信局

越後國中蒲原郡龜田郵便電信局
 尾張國知多郡常滑郵便電信局
 三河國南設樂郡新城郵便電信局
 土佐國幡多郡宿毛郵便電信局
 石狩國空知郡瀧川郵便電信局
 能登國珠洲郡飯田郵便電信局
 羽前國西村山郡寒河江郵便電信局
 出雲國大原郡木次郵便電信局
 常陸國久慈郡太田郵便電信局
 美濃國下石津郡高須郵便電信局

明治二十六年四月

遞信省告示

九

○伺指令

○陸軍豫備後備下士兵卒身上異動取扱方伺 昨二十五年四月二十一日附ヲ以テ佐賀縣知事ヨリ陸軍大臣へ伺出テタル陸軍豫備後備下士兵卒身上異動届等取扱ノ件ハ同大臣ヨリ伺ノ通ト指令セリ其伺文ノ要旨左ノ如シ

郡役所ハ陸軍召集條例第四百八條同第四百九條ニ示シタル如ク陸軍豫備後備將校下士兵員名簿ヲ備へ異動アルトキハ必ス筆削ヲ加フヘキ處明治二十二年十二月陸軍豫備後備服役條例竝ニ歸休兵條例ヲ定メラレ身上異動等ハ總テ町村長ヲ經テ監視區長へ届出ツヘキ筈ニテ郡役所ハ其異動ヲ知ルニ由ナク依テ右異動届ノ際ハ町村長ヨリ郡長へ報告ノ手續ニ爲シタルモ動モスレハ報告疎漏ヲ生シ實際差間アリ且ツ今般陸軍召集旅費支出規程ヲ定メラレタルヲ以テ郡役所名簿ノ儀一層精確ヲ要スルニ附キ前文條例中異動届等町村長ヲ經ヘキ分ハ總テ郡役所ヲ經由スル様致度然ルトキハ町村役場ハ勿論郡役所監視區共取扱上便宜ニシテ郡役所名簿確實ト爲ルヘキニ附キ許可相成リヌシ

(以上明治二十六年四月七日官報抄録)

○國稅滯納處分費納付書ニ關スル稟申 本月六日附ヲ以テ永峯佐賀縣知事ヨリ大藏大臣へ税金滯納者ヨリ納付書ニ督促令狀ヲ添付シ税金及處分費ヲ納入シタル後猶ホ納付書ヲ以テ處分費ヲ納付スル場合即チ國稅滯納處分法第八條第二以下第七マテニ關スル督促令狀手數料以外ノ處分費ヲ納入スルトキハ金庫ニ於テハ該ノ督促令狀ノ番號ト收入官吏ニ於テ右納付書ノ欄外ニ記載シタル番號トヲ對照シ符合スルトキハ該處分費ヲ領收スヘキ

明治二十六年四月

伺指令

二

手續ニ相成リ居ルモ右場合ニ於ケル收入官吏ノ取扱方ニ至リテハ規則上別ニ據ルヘキ明文之ナク就テハ欄外記載ノ手續如何相心得然ルヘキヤトノ稟申ニ對シ同十八日同大臣ヨリ收入官吏ニ於テ彙ノ督促令狀ノ番號ヲ納付書ノ欄外ニ記載シ之ニ檢印シテ拂込ノ手續ヲ爲サシムル儀ト心得ヘキ旨指令セリ

(明治二十六年四月二十日官報)抄録

○徴兵適齡者海軍志願兵志願期ノ件照會 本月十四日附テ以テ靜岡縣知事ヨリ陸軍次官及海軍次官ヘ海軍志願兵志願書差出期ハ徴兵適齡届出テ或ハ檢査済ノ後ニ涉ルト雖モ抽籤前ニアリテハ海軍志願兵ヲ志願スルヲ得ル儀ト心得然ルヘキヤトノ照會ニ對シ一昨十九日海軍省第一局ヨリ徴兵現役當籤者ト雖モ其以前ニ願書ヲ差出シタル者ハ海軍志願兵ニ採用セラルヘキ旨回答セリ

(以上明治二十六年四月二十一日官報)抄録

明治二十六年四月中京都府諸達目錄

番號

摘

要

達ノ月日

丁數

○府令

第二十八號

牛馬ノ出入往來停止ノ箇所解停

十三日

府一

第二十九號

牛市開設停止ノ處停止ヲ解キ及ヒ滋賀縣
下ニ對スル畜牛羊出入往來ヲ解ク

十五日

全

第三十號

河川漁業取締規則中へ追加

十九日

全

第三十一號

尋常師範學校卒業生服務細則

二十日

全

第三十二號

尋常師範學校生徒ノ定員

廿一日

全五

第三十三號

幼稚園保姆盲啞學校ニ類スル各種學校教
員免許規則制定マテニ係ル件

廿七日

全

○達

甲第七號

海軍志願兵願書差出ノ件

六日

京達一

甲第八號

所得金高届記載方ニ付告諭

十一日

全

目錄

明治二十六年四月

京都府諸達

一

甲第九號 陸海軍徵兵身長表 十九日 全 二

甲第十號 新兵入營前事故ニ由リ豫備徵員ヲ徵集スルニ當テ入營セシムル期日 廿一日 全 三

甲第十一號 豫備役工兵及輜重兵演習召集 廿五日 全 三

甲第十二號 國稅ニ關スル事務整理ニ係ル諸帳簿及諸營業稅等申報書ノ件 廿七日 全 四

○告示

第四十二號 牛疫發生ノ旨大阪府ヨリ通報 六日 京示 一

第四十三號 道路改修ヲ要スル箇所測量抗建設 八日 全 一

第四十四號 兵庫縣及大阪府ヨリ牛疫通知 十日 全 一

第四十五號 海軍兵學校將校生徒志願者願書差出期日 十一日 全 二

第四十六號 第四回內國勸業博覽會開設ニ付テノ告示 全 二

第四十七號 兵庫縣下牛疫ノ通知又府下丹波國船井郡上和知村ニ於テ炭疽熱ニ罹リ斃死 十五日 全 三

第四十八號 廿二年告示第三十號中ニ挿入 十九日 全 三

第四十九號 群馬縣下北勢郡赤城根村役場火災ニ罹リ出寄留簿等燒失ニ付同縣在籍者ニシテ當管内へ出寄留ノ者ニ係ル件 廿一日 全 四

第五十號 大阪大林區署龜岡福知山宮津ノ三派出所ヲ廢シ改稱變更ノ件 廿二日 全 四

第五十一號 牡牛一頭類似炭疽熱病ニ罹リ斃死 廿五日 全 五

第五十二號 第四回內國勸業博覽會敷地計畫準備ノ爲メ測量検査及杭木等建設 廿八日 全 五

○京都府諸達

○京都府令

○第二十八號

本年三月府令第廿一號及第廿六號ヲ以テ丹波國船井郡中地區ヲ劃シ牛馬ノ出入往來停止ノ義及布達置候處本日ヨリ解停ス
右布達ス

四月十三日

○第二十九號

明治二十五年十一月府令第五十六號ヲ以テ牛市ノ開設ヲ停止候處自今停止ヲ解キ及ヒ滋賀縣下ニ對スル畜牛羊出入往來ヲ解ク
右布達ス

四月十五日

○第二十號

明治十九年(五月)甲第五十六號河川漁業取締規則第二條第一項ニ左ノ但書ヲ追加ス
但釣漁ヲ爲スハ此限ニテナス
右布達ス

四月十九日

○第二十一號

明治廿五年(七月)文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則第七條ニ依リ其細則ヲ

四月二十日

定ルコト左ノ如シ

尋常師範學校卒業生服務細則

第一條 服務規則第一條第一項但書ニ依リ小學校教員ノ職ニ代フルコトヲ得ヘキ公職ハ小學校ニアラサル官立公立學校教員ノ外公立幼稚園保姆那視學並學務ヲ分掌スヘキ府屬市郡書記及市ノ區書記トス

第二條 服務規則第一條第二項ニ依リ府知事ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣内ニ於テ就職スルコトヲ得ヘキ場合左ノ如シ

- 一 懲戒免職ニ處セラレタル場合ヲ除キ自己ノ便宜ニ依ラスシテ小學校教員ノ職若クハ之ニ代フヘキ公職ニ就クコトヲ得サルトキ
 - 二 他ノ道府縣内ニ於テ家督相續サナシタルトキ
 - 三 女子卒業生他ノ道府縣内ニ於テ婚姻サナシタルトキ
 - 四 女子卒業生其夫他ノ道府縣内ニ移住シタルトキ
 - 五 其他事情ノ特ニ止ムヲ得サルモノト認ムルトキ
- 前項第二條乃至第四條ノ場合ハ家督相續若クハ婚姻サナシタル地又ハ移住シタル地ノ市町村長若クハ市ノ區長ノ證明書ヲ要ス
- 第三條 前條第一項第二條乃至第五條ノ場合ニ於テ他ノ道府縣内ニ於テ就職スルコトヲ許ストキト雖モ其情狀ニ依リ在學中給與シタル學資ノ幾部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第四條 服務規則第三條ノ屆書ハ左ノ事項ヲ記載シ就職ノ義務ヲ卒リタル日ヨリ一週日

以內ニ於テ尋常師範學校ヲ經テ差出スヘシ

- 一 住所生年月
 - 二 卒業年月日
 - 三 服務滿期ノ年月日
 - 四 卒業後服務經歷
- 第五條 服務規則第四條ニ依リ就職ノ義務ヲ免除スヘキ場合左ノ如シ
- 一 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ
 - 二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ一時其職務ニ堪ヘサルトキ
 - 三 服務規則第二條ノ義務ヲ卒リタル女子卒業生ニシテ婚姻サナシ又ハ出産サナシタルトキ
 - 四 服務規則第二條ノ義務ヲ卒リタル女子卒業生其夫他ノ道府縣内ニ移住シタルトキ
 - 五 其他事情ノ特ニ止ムヲ得サルモノト認ムルトキ
- 前項第一款第二款ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ第二款ノ場合ハ豫メ期限ヲ定ムルヲ要ス又第三款第四款ノ場合ニ於テハ婚姻出産若クハ移住シタル地ノ市町村長若クハ市ノ區長ノ證明書ヲ添フヘシ
- 第六條 前條各款ノ場合ニ於テ義務ヲ免除スルトキト雖モ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ノ外其情狀ニ依リ在學中給與シタル學資ノ幾部ヲ償還セシムルコトアルヘシ
- 第七條 第二條及第五條各款ノ場合ニ於テ府知事ノ許可若クハ指揮ヲ請フヘキ書面ハ現

住地ノ郡役所若クハ市ノ區役所ヲ經テ差出スヘシ
 第八條 服務規則第五條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 但報告者小學校長若クハ首席教員タルトキハ左ノ各款ニ掲クル事項ノ外閣校各學級
 生徒ノ種類員數各教員授業及其他ノ校務分擔ニ關スル指定教案査閱ノ手續并授業監
 視ノ方法等校務管理ニ關スル事項ノ梗概ヲ記載スヘシ

- 一 職名俸給住所
 - 二 受持生徒ノ種類員數
 - 三 受持生徒教授時間割
 - 四 卒業後ノ服務履歷
 - 五 其他教授管理及試驗ニ關スル實施ノ要略等
- 前項各款ニ關シ尋常師範學校長ハ報告ノ書式ヲ定メ其卒業生ニ指示スルコトヲ得
 第九條 尋常師範學校ノ卒業生ハ服務年限中就職ノ義務ヲ免除セラレタル者ノ外府知事
 ノ許可ヲ受クルニ非サレバ服務年限間ニ於テ他ノ道府縣ニ旅行スルコトヲ得ス又住所
 ナ移轉シタルトキハ其都度尋常師範學校ニ報告スヘシ
 但小學校長教員職務及服務細則第十條ノ手續ヲナスモノハ旅行ニ關シ本文ニ依ルノ
 限リニアラス
 懲戒免職ニ處セラレモ免許狀ヲ觀察セラレサル者亦前項ニ同シ
 右布達ス

○第二十二號

四月二十一日

明治二十五年(七月)文部省令第九號尋常師範學校生徒ノ定員第二條ニ依リ其男女生徒員
 數ノ割合ヲムルコト左ノ如シ
 男子生徒 百人
 女子生徒 五十人
 右布達ス

○第二十三號

四月二十七日

幼稚園保姆盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校教員ハ追テ免許規則制定マテノ間ハ其品
 行學力等ヲ調査シ適任ト認ムルモノニ限り免許狀ヲ用非ス當該幼稚園各種學校ノ保姆若
 クハ教員トナスヘシ
 右布達ス

明治二十六年四月

京都府令

六

○京都府達

○甲第七號

四月六日

郡役所 京都市上下京區役所

本月一日海軍省告示第一號ヲ以テ本年海軍志願兵徵募兵員告示相成候ニ付徵募規則第三條ノ適當者ヲシテ出願セシメ候様獎勵方取計來ル五月三十一日迄ニ願書當廳へ差出スヘシ
右相達ス

○甲第八號

四月十一日

郡役所 町村役場

所得金高届記載方ニ付別紙之通管内へ告諭候條各納稅者注意方行届候様取扱フヘシ
右相達ス
(別紙)

告諭ニ

明治廿年(五月)大藏省令第八號所得稅法施行細則中所得金高届書式之儀ハ只其大要ヲ示サレタルモノナルカ故ニ右納稅者ニ於テハ之レニ準シ所得ノ種目ヲ區分シ明瞭ニ届出ツヘキ筈ノ處往々其種類ヲ混記シ調査ノ際爲メニ召喚推問ヲ要スル等相互ノ手數尠

明治二十六年四月

京都府達

一

ナカラス候條爾來成ヘク詳細ニ區分スヘキハ勿論土地ノ所得ニ在ツテハ其扣除金中地租ハ特ニ別項ニ記載スヘキ儀ト心得ヘシ
 右告諭ス
 明治二十六年三月十五日
 京都府

○甲第九號

四月十九日

郡役所 町村役場 京都市上下京區役所

陸海軍徵兵身長別表之通被定候條去ル明治二十三年二月甲第十二號達ハ消滅ニ屬スル義ト心得ヘシ
 右相達ス

陸海軍徵兵身長表

軍	陸	區分		身長
		兵種	身	
軍	陸	步兵	兵	五尺二寸以上
		騎兵	兵	五尺二寸以上
		野戰要塞砲兵	兵	五尺四寸以上
		工兵	兵	五尺四寸以上
		輜重兵	兵	五尺二寸以上
		輜重輸卒	卒	五尺二寸以上
		職工	工	五尺以上

海軍	水兵、火夫	身長
看病夫	夫	五尺三寸以上
木工、鍛冶、厨夫	夫	五尺三寸以上
		五尺二寸以上

備考

- 一 壯丁若シ不足スルトキハ定寸以下遞次繰下ケ之ヲ補足ス
- 二 六週間現役兵ハ歩兵ノ身長ニ同シ

○甲第十號

四月二十一日

郡役所 町村役場 京都市上下京區役所

徵兵事務條例第五十一條新兵入營前事故ニ由リ豫備徵員ヲ徵集スルニ當テハ十二月三十一日迄ニ入營セシムルハ勿論ニ候ヘル取扱上不得止場合ニ在テハ翌月十日迄ニ入營セシムルヲ得ル義ト心得ヘシ
 右相達ス

○甲第十一號

四月二十五日

郡役所 町村役場 京都市上下京區役所

豫備役諸兵教練復習教令ニ依リ豫備役工兵(電信通信術同建築術卒業者ヲ除ク)及輜重兵演習召集左ノ通施行候旨其筋ヨリ通牒有之候條不都合無之様取計フヘシ
 召集人員
 豫備役第二年兵及第四年兵悉皆

明治二十六年四月

京都府達

四

參集場所

工兵ハ伏見工兵第四大隊營

輜重兵ハ大阪城南練兵場

參集期日

五月三十日午前第八時

演習日數

工兵ハ五月三十日ヨリ四週日

輜重兵ハ五月三十日ヨリ三週日

右相達ス

○甲第十二號

四月二十七日

郡役所 町村役場 京都市上下京區役所

國稅ニ關スル事務ノ整理ハ常ニ明瞭正確ヲ期スヘキハ勿論就中直接國稅ノ如キハ僅少ノ額ト雖モ各人ノ權利上大ヒナル關係ヲ有スル義モ有之ニ付一層注意ヲ要スヘキノ處往々整理寬慢ニ流レ中ニハ徵稅ノ基礎確實ナラスニテ徵稅令書ト一人別徵稅元帳ノ合計符合セサル向モ有之哉ニ相聞ヘ加之其筋ヨリ訓令ノ次第モ有之今般町村役場區役所等國稅ニ關スル事務監理規程ヲ定メ隨時所管直間稅署員ヲシテ調査セシメ候條左ノ諸帳簿地圖等常ニ整理ノ完全ヲ期スヘシ而シテ毎年十二月末日ノ現在ニ依リ土地臺帳及名寄帳ハ地目限リ其反別地價地租ノ合計ヲ諸營業稅臺帳及船車稅臺帳ハ別表樣式ニヨリ申報表ヲ製シ各翌年一月二十日限リ所管直間稅分署ヘ差出スヘシ

土地臺帳(共有地連名簿及土地異動通知書ノ類共)

土地所有者名寄帳

諸營業稅臺帳

船車稅臺帳

國稅徵收ニ關スル諸帳簿(徵稅令書及徵稅傳令書級上納證綴ノ類共)

町村地圖

右相達ス

明治廿一年 諸營業稅及船車稅臺帳稅額員數申報書
十二月末日

項	目	員數	稅率	稅額	項	目	員數	稅率	稅額
煙草稅					菓子稅				
製造營業		七、五〇〇			製造營業				
仲買營業		七、五〇〇			雇人何人以上		...		
小賣營業		二、五〇〇			同何人		...		
計					同ナ		...		〇、五〇〇

明治二十六年四月

京都府達

五

明治二十六年四月

京都府達

六

小計	卸賣營業	小賣營業	計	賣藥稅	營業方人員	船稅	蒸氣船	西洋形	風帆船	日本形	大日本形	日本形小船
	同上	同上					噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
	同上	同上			1,000		百噸二付 七五〇〇	同	五〇〇〇	百石二付 一〇〇〇		
	内譯製造營業ニ同シ											
三間	四間以上	五間以上	何間以上	小計	遊船	計	車稅	馬車稅				
〇,150	〇,125	〇,300	...		内譯日本形小船ニ同シ							
												1,000

右申報候也

明治何年一月日

京都府知事宛

何郡市區町村長氏名印

荷積	小計	人力車稅	牛馬稅	荷車稅	計	免許人員	鑑札枚數
〇,500		二人乗一人乗ノ内譯記載方馬車ニ立二匹立ノ例ニ準ス	〇,500	大七中小ノ内譯記載方馬車二匹立一匹立ノ例ニ準ス		〇,500	〇,500

明治二十六年四月

京都府達

七

○京都府告示

○第四十二號

四月六日

本年三月廿二日ヨリ全廿八日迄牛疫發生十三頭内斃死一頭撲殺十二頭ナル旨大阪府ヨリ通報タリタリ

右告示ス

○第四十三號

四月八日

今般京都市道路之内改修ヲ要スル箇所計畫準備ヲ爲メ來ル四月十一日ヨリ十月中ノ間ニ於テ當府吏員市内民有地ニ立入検査シ又ハ測量杭ヲ建設スヘシ

右京都市へ告示ス

○第四十四號

四月十日

兵庫縣ニ於テハ客月廿七日牝牛壹頭牛疫ニ罹リ全廿九日撲殺セリ

大阪府ニ於テハ自客月廿九日至本月四日牛疫届出數十四頭内撲殺十四頭有之タル旨何レモ其府縣ヨリ通知アリタリ

右告示ス

○第四十五號

四月十一日

本年海軍省告示第二號(本府告第一七七號)ヲ以テ海軍兵學校將校生徒拾八名召募ニ付右志願ノ者ハ本年六月五日迄ニ當廳へ願書差出スヘシ

明治二十六年四月

京都府告示

右告示ス

○第四十六號

四月十一日

今般勅令第十六號ヲ以テ第四回内國勸業博覽會ヲ明治廿八年四月一日ヨリ同年七月三十一日マテ京都市岡崎町ニ於テ開設セラル、旨公布セラレ隨テ其官制モ己ニ發布アリ諸規則等モ逐々發布セラルヘキニ付テハ本府ニ於テモ逐次告示スル所アルヘシト雖モ先ツ愛ニ該博覽會ニ關スル主要ノ件ヲ告示ス

今回當地ニ於テ博覽會ヲ開設セラル、ハ實ニ吾京都ノ盛衰隆替ニモ關スヘキ大切ノ機ナリト謂フヘシ府下人民ニ於テハ各々奮勵競進其力ヲ盡シ其業ニ勤メ以テ美術工藝農業水産凡百ノ事物ニ至ル迄其精ヲ致シ其美ヲ盡シ以テ吾京都ノ名譽ヲ播揚シ此博覽會ヲ本地ニ開設セラレシ好美果ヲ收メサルヘカラス若シ不幸ニシテ輿望ニ副ハス他ヲシテ名譽ヲ博セシムル如キアラハ京都從來ノ名譽ヲ毀損スル甚大ナルヲ以テ十分此ニ注意シ開設地ノ主位タルニ愧チサル心得ヲ怠タルヘカラス也

凡ソ競争ハ改良進歩ノ基也若シ競争者ナキ時ハ他ニ制セラル、懼ナシト雖モ亦奮勵心ノ生セサルカ爲メ遂ニ退歩ヲ免カレヌ故ニ他ニ競争者ヲ生スルハ我ニ益スルノ良媒タルヲ忘ルヘカラス從來吾京都ノ重要物産トシテ名譽ヲ博シタル織物陶磁器銅器七寶燒時繪漆器製茶繭糸ノ如キ近來所々ニ競争者ヲ生シ其勢駭々トシテ日ニ盛ンナリ當業者ニ於テハ此競争者ヲ好敵手ト見做シ益々技術ヲ研キ藝術ヲ究メ此博覽會ヲ好機トシ大ニ爲ス所アルヲ期セサルヘカラス果シテ此機ヲ失ハス大ニ奮勵スル所アレハ其競争ハ反テ我ニ益ス

ルノ良媒トナルヘキ也

博覽會ノ出品ハ千萬人ノ耳目ニ觸ル、ノミナラス審査判定書ニ其差等ヲ立テラル、者ナレハ出品者ニ於テハ先以テ其注意ナカルヘカラス時期切迫ニ及ンテ俄ニ工事ヲ急ニシテ製作スル如キアリテハ其成功上無數ノ欠點ヲ生スル者ナレハ出品者ハ今日ヨリ同業組合若クハ協會等ニテ其擔當者ヲ撰定シ協同謀議各々意匠ヲコラシ技能ヲ盡シ良品ヲ製作シ優越ニ入ル事ニ務ムルヲ要ス

此博覽會ハ獨リ内國ニ對スルノミナラス實ニ宇内萬國ニ對シ吾京都ノ位置ヲ高クスルモ從來ノ名譽ヲ失墜スルモノニ此ニ決スル所ナレハ當業者ニ於テハ獨リ一身一家ノ名譽營利ノミナラス國家ノ爲メ非常ノ奮發ヲ爲スヘキハ無論一般人民ニ於テモ各々精々此ニ注意シ特ニ吾京都タル所以ノ位置ヲ高メ莊觀ヲ副フヘキ事ハ十分計畫ヲ爲シ以テ吾京都ノ名譽ヲ顯揚スルニ務ムヘキナリ

右告示ス

○第四十七號

四月十五日

兵庫縣下川邊郡小濱村ノ内米谷ニ於テ牝牛一頭本月二日午疫ニ罹リ同四日撲殺ノ旨通知アリ又本府下丹波國船井郡上和知村宇升谷ニ於テ本月十一日炭疽熱ニ罹リ斃死セル旨届出タリ

右告示ス

○第四十八號

四月十九日

明治二十六年四月

京都府告示

明治二十六年四月

京都府告示

四

明治廿二年四月告示第三十號但書中官ニ買上ノ下ニ（當廳ヲ經由セス地主ト直接）割註ヲ挿入ス

右告示ス

四月廿一日

○第四十九號

本年三月十三日群馬縣下北勢郡赤城根村役場火災ニ罹リ出寄留簿及其關係書類悉皆燒失ニ付同縣在籍者ニシテ當管内へ出寄留致居候モノハ當初届出ノ通り記載シ來ル五月十日迄ニ同役場へ更ニ届出ヘシ

右告示ス

四月廿二日

○第五十號

大阪大林區署龜岡、福知山、宮津ノ三派出所ヲ廢シ左ノ通四月二十日ヨリ改稱變更候旨同署ヨリ通知アリタリ

一龜岡派出所ヲ廢シ其管轄區域ヲ京都小林區署區域内ニ編入ス

一福知山、宮津ノ二派出所ヲ廢シ福知山小林區署ヲ現在福知山派出所所位置ニ設テ二派出所區域ヲ其管轄區域トス

一京都小林區署管轄區域中山城國宇治郡笠取村大字笠取字岩間山官林ヲ在近江國滋賀郡大津町滋賀小林區署區域内ニ編入ス

右告示ス

○第五十一號

四月廿五日

府下丹波國天田郡上夜久野村字直見ニ於テ牝牛一頭本月十三日類似炭疽熱病ニ罹リ斃死セシ旨届出タリ

右告示ス

○第五十二號

四月廿八日

京都市上京區岡崎町聖護院町地内ニ於テ第四回内國勸業博覽會敷地計畫準備ノ爲メ本月廿九日ヨリ來ル六月三十日迄ノ期日内ニ主務吏員右地内ニ立入り測量檢査及抗木等建設スヘシ

右告示ス

明治二十六年四月

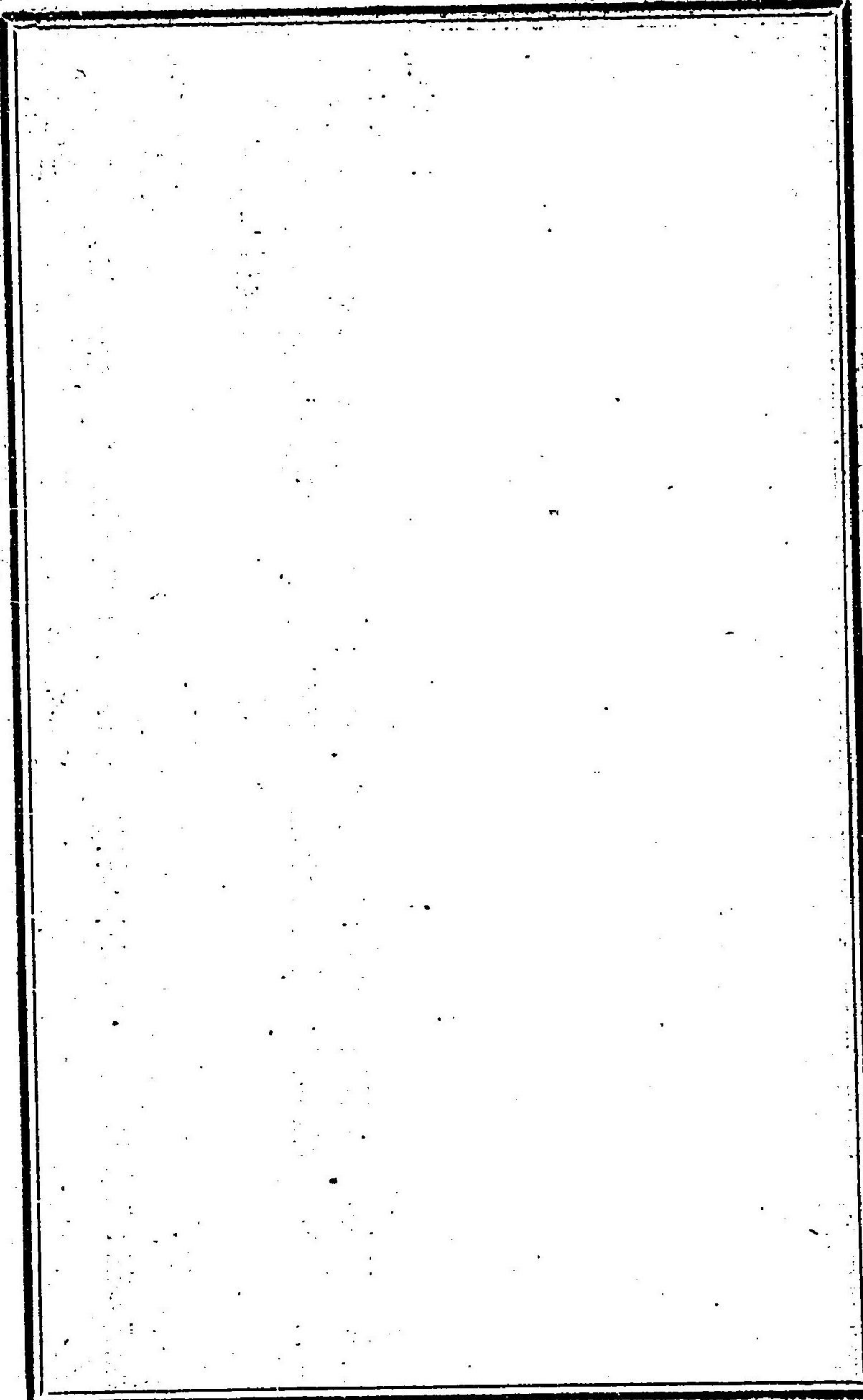
京都府告示

五

明治二十六年四月

京都府告示

六



○京都市公告目錄

第二十六號

疏水運河及水利上ニ關スル件ニ付願伺届
名宛ノ件

第二十七號

廿六年度歳入出豫算

第二十八號

消防組正副組長及消防夫ニ係ル負傷及死
亡者手當給與ノ件

三五
一月日

全市
全一

全

全
二七

目錄

明治二十六年六月

京都市公告

一

○京都市公告

京都市公告第二十六號
市會ノ同意ヲ得テ疏水運河及水利上ニ關スル事務ヲ分掌セシメ候條該件ニ關スル願伺屆
書ハ參事會員下間庄右衛門名宛ニテ差出スヘシ
右公告ス

京都市參事會

京都市府知事千田貞曉

明治廿六年四月五日

京都市公告第廿七號

本市明治廿六年度歳入出豫算市會ノ議決ヲ取リ別紙之通相定ム

京都市參事會

京都市府知事千田貞曉

明治廿六年三月三十一日

京都府京都市明治二十六年年度歳入出豫算

歳入

一金貳拾四萬千百拾圓六厘

歳入豫算高

歳出

一金拾貳萬九千四百六拾貳圓九拾七錢八厘

一金拾壹萬千六百四拾七圓貳錢八厘

經常費豫算高
臨時費豫算高

合計金貳拾四萬千百拾圓六厘

明治二十六年四月

市公告

一

明治二十六年四月

市公告

二

京都府京都市明治二十六年度歳入出豫算

歳入		歳出	
科	目	金額	付記
第一款	財産ヨリ生スル收入	一五、四九四	
一	預ケ金利子	一五、四九四	高等小學校資金參百四拾壹圓四拾六錢壹厘日歩壹錢貳厘預ケ利子及舊備範學校貸費償却金百八拾參圓貳錢四厘日歩同上利子トモ
第二款	使用料及手數料	一三、九七二、〇一六	
一	使用料	一三、九七二、〇一六	電動力使用料七千六百貳拾貳圓四拾壹錢六厘水力使用料參千貳百貳拾圓六拾錢運輸船使用料千九百拾六圓貳拾五錢遊船使用料七百貳拾圓門使用料四百拾九圓七拾五錢イソクライノ使用料七拾參圓トモ
第三款	雜收入	一五、三四五、六七七	
一	不用地拂代	三、一四三、八六三	疏水不用地九町四反六畝十七步九合四勺代

二	不用品拂代	五八七、〇〇〇	疏水不用器械代五百圓上京區役所不用品代拾八圓五拾錢ト京區全拾五圓火防全參圓號砲全五拾錢避病院桐木代五拾圓
三	地所貸付料	三三〇、〇〇〇	疏水用地ノ内一町一反歩貸付
四	授業料	九、二九二、八〇〇	高等小學校生徒徒上京八百人下京千八百人合千九百人一人一ヶ月四拾錢内一家二人以上入學者上京五十人下京六十人合百十人一人一ヶ月貳拾錢十二月分美術學校百人内三年生以上三十二人一人一ヶ月五拾錢二年生以下六十八人一人一ヶ月參拾錢十二月分
五	雜入	三二、〇一五	尿屎料上京區役所八圓拾六錢下京拾壹圓上京高等小學校貳拾四圓下京全參拾六圓美術學校壹圓九拾五錢水利事務所參圓五拾錢捕魚料百六拾圓八拾錢五厘地方稅滯納處分費上京區參拾圓下京區參拾圓下京區年度後收入五圓區宿村遞送費收入六拾錢美術學校所屬田地諸稅拂戻拾圓トモ
六	公債募集益金	一、六五二、〇〇〇	四萬千五百圓募集ニ對スル分
第四款	前年度繰越金	四六、五八七、一六三	

明治二十六年四月

市公告

三

第五款 市公債	四、三〇〇、〇〇〇	
第六款 交付金	二、一六、七〇七	
第七款 市稅	一、二、七、七、九、四、五	宅地租壹圓ニ付拾四錢貳厘ノ割其他地租壹圓ニ付拾錢六厘ノ割
一 地租制	五、三、四、四、一、五、九	地方稅中營業稅ハ地方稅壹圓ニ付九拾錢ノ割同雜稅中遊藝師匠遊藝隊人相撲俳優粉間藝妙船自用車乘馬ハ地方稅壹圓ニ付八拾錢ノ割全上自用車ノ外諸車及屠畜ハ地方稅壹圓ニ付四拾錢ノ割其他ハ地方稅壹圓ニ付九拾錢ノ割
二 營業制	七、七、五、七、八、一、七、四	
三 戶別制	二、三、九、八、二、〇〇〇	一等戶 一、等ヨリ四十等マテノ地所ニ建設スル家屋ニ住居 金七拾貳錢 二等戶 四十一等ヨリ七十等マテ 金一拾ニ付 三等戶 七十一等以下ノ全上家持 金六拾錢 四十一等ヨリ七十等マテ 金四拾八錢 七十一等以下ノ全上家持 金四拾八錢 四十一等ヨリ七十等マテ 金四拾八錢

計	二、四、一、一〇、〇〇六	
五 步一稅	六、〇〇〇、〇〇〇	
四 國稅附加稅	一〇、〇、三、三、四、六	四等戶 七十一等以下ノ全上表借 金一拾ニ付 一等ヨリ四十等マテノ家一、等ヨリ四十等マテノ裏借家并異業全居者 金三拾六錢 四十一等ヨリ七十等マテノ全上裏借家并異業全居者 金一拾ニ付 五等戶 七十一等以下ノ全上裏借 金貳拾四錢 六等戶 七十一等以下ノ全上裏借 金一拾ニ付 家并異業全居者 金拾貳錢
歲出經常費		所得稅ハ國稅壹圓ニ付參拾錢ノ割賣藥營業稅菓子製造營業稅ハ國稅壹圓ニ付貳拾錢ノ割煙草營業稅米商會所稅國立銀行稅株式取引所稅ハ國稅壹圓ニ付拾錢ノ割 地所建物賣買讓與代價百圓ニ付壹圓ノ割
科 目 金 額		第一款 市參事會議所費 四、七、三、二、四、〇

第一項	給料	405,000	月俸拾圓壹人(市會書記兼務)全八圓一人
一	雇給料	26,000	使丁二人一人ニ付月俸四圓五拾錢(一人ハ市會小使兼務)
二	使丁給料	108,000	年額
三	爲替方給料	80,000	
第二項	雜給	5,000,700	
一	實費辨償額	2,430,000	參事會員一ヶ月出務十回トシ九人分水利分等 參事會員同十五回トシ一人分學務委員全十回 トシ五人分教育委員全十回トシ三人分臨時土 木委員全十五回トシ五人分公園委員一人年額 拾圓三人分紀念祭委員一週一回トシ十五人分 學務委員五人一人年額五拾圓教育委員三人全 上 水利分掌參事會員一人年額三百圓 公園 委員三人一人年額拾圓 臨時土木委員五人一 人年額五拾圓 公園委員三人慰勞手當一人ニ付年額三拾圓
二	報酬	980,000	訴訟其他事務ノ爲メ出張旅費
三	慰勞	90,000	
四	旅費	500,000	

第五	賞與	2,700	雇給月給額十分ノ一半
第三項	需用費	296,880	官報書籍新聞書函其他雜品
一	備品費	50,000	筆紙墨薪炭其他雜品
二	消耗費	200,000	
三	通信運搬費	30,000	
四	賄費	1,580	雇使丁夜勤一ヶ月各十二回一回雇ハ拾錢五厘 使丁ハ貳錢五厘
五	雜費	15,000	
第四項	修繕費	10,000	
第二款	會議費	98,150	
第一項	給料	106,500	
一	書記給料	63,000	一日七拾錢ノモノ一人日數九十日分

第二項 雜給	給	六三〇.〇〇〇	受付一日貳拾五錢ノモノ一人三十日分小使全貳拾錢ノモノ二人各九十日分
一 實費辨償額		六三〇.〇〇〇	議員一人一日五拾錢四十二人三十日分
第三項 需用費		二三五.〇〇〇	
一 印刷費		一六〇.〇〇〇	議案決議錄及議事錄
二 備品費		一五.〇〇〇	書函其他雜品
三 消耗費		四〇.〇〇〇	紙筆墨炭其他雜品
四 通信運搬費		一〇.〇〇〇	通信費貳圓運搬費八圓
第四項 雜費		一〇.〇〇〇	議場借入料
第五項 修繕費		一〇.〇〇〇	議場修繕費
第三項 區役所費		二二,九四〇.六七五	

第一項 給料		一八,九三三.〇〇〇	
一 區長給料		二,〇〇〇.〇〇〇	年俸七百圓一人五百圓一人
二 書記給料		九,六四八.〇〇〇	平均月俸拾貳圓ノモノ上京三十一人下京三十六人
三 付屬員給料		五,一二〇.〇〇〇	平均月俸六圓ノモノ上京三十二人下京三十九人
四 給仕給料		二四.〇〇〇	月俸三圓ノモノ各區二人ツ
五 使丁給料		二,七三六.〇〇〇	上京二十七人下京三十人一人月給四圓ノ割
六 爲替方給料		七三.〇〇〇	各區年額參拾六圓ツ
第二項 雜給	給	一五四.二〇〇	
一 旅費		三一.二〇〇	各區拾五圓六拾錢ツ
二 勉勵賞與		一三三.〇〇〇	書記付屬員月俸百分ノ十
第三項 需用費		三,三六二.三四〇	

一	備品費	二七六,〇〇〇	書記付屬員一人貳圓目安上京六十三人下京七十五人
二	消耗費	二,三四六,〇〇〇	書記付屬員一人拾七圓目安上京六十三人下京七十五人
三	賄費	四九六,一〇〇	各區宿直書記一人使丁三人此賄費一夜書記七錢使丁五錢書記付屬員夜勤上京千九百九十度下京千三百三十五度給仕小使上京百七十四度下京百九十一度書記付屬員一度參錢五厘給仕小使全貳錢五厘及國稅鑑定方各區月額拾圓ツ、上京區百八圓下京區百參拾四圓貳拾四錢
四	通信運搬費	二四三,二四〇	
第四項	雜費	三〇,〇〇〇	
一	借家料	三〇,〇〇〇	議員撰舉會場等借入料各區拾五圓ツ、
第五項	修繕費	四九三,一三五	上京區事務所一棟建設貳百九拾貳圓五拾錢事務所ヨリ取付通ヒ廊下貳拾圓外ニ箇所未定修繕貳拾圓下京區事務所北側へ庇ヲ建設百拾圓圓五拾錢便所修繕六圓拾參錢五厘其他小廻リ修繕四拾圓
第四款	教育費	一七,〇五八,六〇〇	

第一項	學務委員事務取扱費	六〇,五〇〇	臨時雇六十人一人金參拾錢
一	雇給料	一八,〇〇〇	椅子
二	雜具費	一〇,五〇〇	炭油筆紙墨等
三	消耗費	二六,九三〇	
四	通信費	五,〇〇〇	
第二項	高等小學校費	一三,九三五,一四〇	
一	教員給料	九,一三〇,〇〇〇	年俸百六拾圓目安五十七人內上京二十四人下京三十二人
二	准教員給料	四八〇,〇〇〇	月俸八圓目安五人內上京二人下京三人
三	雇給料	二六四,〇〇〇	事務雇二人上京一人月俸拾圓下京一人月俸拾貳圓
四	使丁給料	七四七,〇〇〇	月俸四圓目安ノモノ十四人內上京六人下京八人臨時雇五百人日給拾五錢上京二百人下京三百人

五	旅費	10,000	上下京各拾圓
六	慰勞	13,300	正准教員雇給料月額百分ノ十五ヲ目安トス
七	賞與	9,000	生徒千九百人一人平均五錢ヲ目安トス
八	金教員恩給基	9,100	
九	書籍費	6,000	上京參拾圓 下京參拾五圓
十	器械費	10,628.9	上京四百四圓參拾四錢參厘 下京六百拾壹圓九拾四錢六厘
十一	雜具費	3,811.5	上京百參拾八圓六拾錢五厘 下京百七拾九圓五拾壹錢
十二	消耗費	8,623.6	上京參百參拾九圓貳拾八錢貳厘 下京四百七拾六圓九拾五錢四厘
十三	賄費	1,128.0	上京四拾六圓八拾錢 下京六拾五圓五錢
十四	通信運搬費	2,700	上京拾貳圓 下京拾五圓
十五	雜費	2,970.00	上京五拾壹圓 下京貳百四拾六圓

十六	修繕費	3,431.50	上京百參拾四圓拾五錢 下京貳百九圓
第三項 美術學校費			
一	教員給料	1,998,000	教員九名俸給平均一名ニ付一ヶ月拾八圓五拾錢目安
二	使丁給料	11,500	月俸四圓ノモノ二名臨時雇日給拾五錢ノモノ百五十八參拾錢ノモノ十人
三	旅費	2,140	教員東京ヨリ赴任旅費
四	慰勞	2,599.70	百八拾圓美術協賛員慰勞費五拾圓美術家招聘謝儀廿九圓九拾七錢職員慰勞年俸千分ノ十五
五	賞與	5,000	生徒百人一人ニ付五錢ヲ目安トス
六	書籍費	90,000	美術ニ關スル圖案粉本ノ購入費及手本畫裏打等
七	器械費	1,559.75	假張リ習畫用黒羅紗彫刻器械全標本木材費等
八	備品費	3,727.5	火鉢土瓶茶碗小使法被等
九	消耗費	20,392.4	木炭石油筆紙墨繻具其他雜品

明治二十六年四月

市公告

十四

十	賄費	四三、八〇〇	職員一名宿直一夜七錢小使一名一夜五錢
十一	通信運搬費	一四、〇〇〇	八圓通信費六圓運搬費
十二	雜費	一〇、〇〇〇	
十三	新營費	七八、四五〇	陶密試驗室新設費
十四	修繕費	二四、〇〇〇	校舍修繕費
第五款	衛生費	八、五九七、一八五	
第一項	溝渠費	二、一五三、六二五	一回厚サ一寸五分宛春秋二回此立土坪二千七百三十六坪六合一坪ニ付七拾八錢七厘
第二項	井水試驗費	二九〇、八二五	
一	給料	一三〇、八〇〇	助手兼書記一日貳拾錢延人員五百四十九人小使一日一人拾五錢延人員百人
二	藥品費	一、二八、三七五	井水五千個試驗藥
三	器械費	一三、七〇〇	試驗管及硝子瓶ノ類

四	消耗費	二四、一五〇	成驗書及臺帳用紙筆墨炭茶ノ類
第三項	塵芥採收費	三、八八八、八四〇	各戸塵芥採收一ヶ月三回夏季七八九三ヶ月ハ四回トス但六万四千八百十四戸一戸六錢ノ割
第四項	種痘費	一、四〇六、三五〇	年手當一人ニ付五拾圓十八人分
一	醫員手當	九〇〇、〇〇〇	
二	証書費	二六、五五〇	天然痘証書川紙千組一組一厘五毛種痘証書用紙一万組一組貳厘壹毛參系發生証書用紙一万五千枚一枚貳毛五糸
三	痘漿費	四三、四八〇	痘漿入一管代貳拾錢一管ニテ七名接種一万五千二百十五人分
四	雜費	四三、〇〇〇	接種及檢痘所借入料一ヶ月所參圓十五ヶ所分
第五項	病院費	二五八、二九五	看守人月俸參圓ノモノ二人
一	給料	七二、〇〇〇	釣瓶鉗鍬其他雜品及修繕用兩院各參圓
二	備品費	六、〇〇〇	

明治二十六年四月

市公告

十五

三	消耗費	10,000	油燭燭炭其他雜品兩院各五圓
四	賄費	4,575	一夜辨當料貳錢五厘兩院各百八十三日分
五	借地料	2,000	聚樂病院門前道敷借地料
六	掃除費	9,000	全上院內掃除人夫一人拾五錢六十八分
七	修繕費	15,470	病室間仕切欄間七ヶ所小障子十四枚四圓貳拾錢壁中塗百五十坪拾八圓瓦破損三十坪貳拾六圓九拾錢鐵力及竹樋五圓兩戶五十枚戶袋六ヶ所敷居鴨居連子等大工手間六拾參圓七拾七錢其他小修繕費拾圓以上上京ノ分瓦破損二十坪拾六圓八拾五錢其他小修繕費拾圓以上下京ノ分
第六項	傳染病ニ罹ル赤貧者救濟費	30,970	
一	診察料	110,000	患者二十人一人一回貳拾錢各三十回
二	藥價	50,000	患者二十人一日拾錢ツ、各十五日分高價藥一回貳拾錢百回分

三	諸雇給	61,500	運搬人夫一回貳拾五錢百五十回看病人一人一日貳拾錢百二十人分
四	火葬并排泄物燒費	39,000	棺桶并付屬品一人五拾錢十八分火葬料一人壹圓十人分排泄物燒費一回四拾錢六十回分
五	汚穢物買上費	26,000	平均一人貳圓十三人分
六	患者賄費	7,100	行旅人四人一人一日拾貳錢各十五日分
七	雜費	6,000	全上小屋掛ヶ料其他雜費一人壹圓五拾錢
第七項	傳染病豫防費	28,950	
一	消毒藥價	206,750	患者五百戶ノ見込石炭酸二百五十磅一磅六拾錢グリスリソ百六十七磅一磅貳拾五錢石灰干五百磅一磅壹錢
二	需用費	40,000	釣臺其他器具
三	病毒検査費	31,200	病毒検査十五人分平均一人貳圓八錢
四	遮斷費	21,600	赤貧患者年齡十五年以上七十歲未滿ノ男五日間延人員百人一日一人白米四合代參錢貳厘女及其他ノ男全上二百人一日一人白米三合代貳錢四厘人夫十八人一人廿錢但白米一升金八錢

第六款 土木費		九,四六二,五〇〇
第一項 街燈費		八,〇一〇,五〇〇
一	點燈費	七,三八四,八〇〇
二	修繕費	五〇八,七〇〇
三	改造費	一,一七三,〇〇〇
第二項 疏水運河修繕費		一,一五二,〇〇〇
一	修繕費	九一三,三〇〇
二	定夫費	三三八,三三〇
三	雜具費	一五,四三〇
第七款 水利事務所費		六,七八九,七〇〇

街燈一ヶ月平均一基ニ付四拾錢上京區五百七十四基下京區六百九十七基電燈十基一ヶ月平均拾圓七拾錢各十二ヶ月分

街燈平均一基四拾錢千二百七十一基分

平均一基壹圓九拾錢六十七基分

大津ヨリ鴨河迄及分線路共疏水運河ニ係ル修繕費五百圓インクライオン鐵車修繕百七拾五圓貳拾五錢船引繩受金物貳百三拾八圓五錢日給參拾錢ノモノ一人全貳拾五錢ノモノ三人雜具、鋤、鍬、畚、土砂運搬車其他

第一項 給料		四,九六一,八〇〇
一	書記給料	五七六,〇〇〇
二	技士技手工夫給料	三,六七二,〇〇〇
三	諸雇員給料	六三五,八〇〇
四	使丁給料	一〇八,〇〇〇
第二項 雜給		二五四,九〇〇
一	旅費	八〇,〇〇〇
二	賞與	一七四,九〇〇
第三項 需用費		一,四九三,〇〇〇
一	備品費	二八,〇〇〇

事務所書記參拾圓一人全拾圓一人全八圓一人

電氣技術長月給七拾圓一人技手參拾圓二人工夫月給平均拾壹圓十六人

大津開門番七圓一人インクライオン番六圓二人鴨東開門番六圓一人大津開門定夫四人日給貳拾參錢

使丁二人月給四圓五拾錢

所員出張旅費

技士技手工夫月給額十分ノ五金百五拾參圓事務員月給額十分ノ三金貳拾壹圓九拾錢

書記以下二十八人一人平均壹圓

二	消耗品費	一九六,〇〇〇	筆紙墨炭油蠟燭其他一切一ヶ月金拾六圓參拾參錢參厘強
三	賄費	四六八,〇〇〇	宿直書記付屬員ノ内一人賄費一夜七錢使丁一人一夜五錢書記付屬員技士技手夜勤度數五十度一度參錢五厘使丁全上貳錢五厘
四	通信運搬費	一八,〇〇〇	月額壹圓五拾錢
五	器械費	一六五,〇〇〇	動力用發電氣ヲラツシユ十組百六圓臨時小器械代九圓其他修繕費五拾圓
六	器械消耗品費	七四二,七〇〇	發電氣油百五ガロン九拾九圓七拾五錢白絞油二十六石五斗四百六拾參圓七拾五錢牛蠟十貫目七圓五拾錢ラソナ四十個參拾圓糸布晒木綿六拾五圓砂紙八百枚八圓クローカス百枚參圓石鹼貳圓車費拾五圓其他四拾八圓七拾錢
七	電話費	五四,〇〇〇	大津京都間電話線保守費電槽長瓶楢圓瓶丹琴フノ一ト代其他臨時人夫賃
八	雜費	二二三,五〇〇	器械ニ屬スル臨時大工人夫等各一人百八拾貳圓五拾錢事務所ニ屬スル臨時人夫及車賃廣告等ノ雜費六拾圓
第四項	修繕費	五〇,〇〇〇	臨時修繕費

第八款 大津市街飲料水補給費		二,五七七,八四八	
第一項	給料	三三二,二〇〇	火夫一日ニ付貳拾七錢ノモノ一人全貳拾五錢ノモノ一人手傳二人一人ニ付一日拾八錢ツ、
第二項	雜費	二,一六三,一四八	
一	雜品費	一,九八八,五〇〇	石炭晝夜千八百斤代千六百四拾貳圓五拾錢白絞油一晝夜一升百九圓五拾錢石油一夜ニ付一升參拾六圓五拾錢水瀉砂買入代八拾圓其他雜費
二	掃除費	一七四,六四八	小掃除一ヶ月三十一回一回ニ付貳圓大掃除同一回參拾五圓大掃除七日間汲水費一日九圓六拾六錢四厘
第三項	修繕費	九三,五〇〇	安全辨一個貳拾八圓機械及鐵管修繕費參拾五圓其他修繕
第九款	量水觀測費	二七七,七六〇	
第一項	給料	二五二,〇〇〇	月給七圓ノモノ三人
第二項	雜費	二〇,七六〇	
一	雜品費	一三二,二〇〇	觀測表用紙其他雜費

二	賄費	七五六〇	臨時夜勤一ヶ所一ヶ月三日一人一夜ニ付七錢ノ割
第三項	修繕費	五、〇〇〇	量水標修繕
第十款	火防費	二、九七九、三四〇	
第一項	雜給	二、四四八、五〇〇	
一	雇給	七六六、〇〇〇	消防夫百七十四人二十ヶ度合人員三千四百八十人器械掃除人夫一ヶ月一組三人十組十二ヶ月合人員三百六十八人各一人金貳拾錢
二	撞鐘料	二四、〇〇〇	十ヶ組廿四ヶ度一ヶ所一度金拾錢
三	被服費	一、三二五、〇〇〇	半纏帶襪及頭巾一組壹圓五拾錢定員八百七十人及豫備服五人分
四	手當	二、九四、〇〇〇	組長十人一人ニ付認定日常年額六圓副組長二十人一人ニ付全參圓點檢一回定員八百七十八人日常貳拾錢
五	賞與	五〇、〇〇〇	
第二項	需用費	四四一、六〇〇	

一	備品費	三〇〇、〇〇〇	平均一ヶ組金參拾圓十ヶ組分
二	消耗費	五一、六〇〇	一度蠟燭金六拾錢炭薪金壹圓八拾錢二十ヶ度其他金參圓六拾錢
三	賄費	九〇、〇〇〇	一度百八十八人二十ヶ度合人員三千六百人一人金貳錢五厘
第三項	建築修繕費	八六、五〇〇	
一	建築費	五〇、〇〇〇	パイプ乾場一ヶ所五圓十ヶ所分
二	修繕費	三六、五〇〇	器械置場一ヶ所金九圓五拾錢其他平均一ヶ所參圓九ヶ所分
第四項	雜費	二、六四〇	器械置場敷地借入料一ヶ月金拾錢一ヶ所及全拾貳錢一ヶ所分
第十一款	號砲費	四七、七、三六〇	
第一項	給料	一五〇、〇〇〇	
一	技手給料	一〇八、〇〇〇	月俸九圓ノモノ一人
二	使丁給料	四二、〇〇〇	月俸參圓五拾錢ノモノ一人

第二項 雜給	11,250	
一 旅費	4,200	大坂及宇治へ各一回分
二 被服費	6,000	使丁冬服夏服各一組短靴一足雨具一組新調及修繕費
第三項 需用費	22,250	
一 備品費	2,750	洗矢一本代金壹圓七拾五錢其他雜品壹圓
二 消耗費	19,500	火藥代金百七拾六圓磨軋管四百本代七圓六拾錢其他雜品拾圓
三 通信運搬費	4,850	郵便電信壹圓運送費參圓八拾五錢
四 賄費	10,950	一夜辦常料金參錢三百六十五日分
第四項 雜費	8,000	砲塲借地料五拾貳圓發射人詰所借家料拾貳圓松ヶ崎火藥庫借入料拾八圓其他壹圓
第五項 修繕費	1,970	電信線五圓電池四圓九拾七錢其他拾圓
第十二款 勸業費	11,110,895	

第一項 勸業費	110,000	共進會品評會賞狀費
第二項 勸業補助費	2,100,895	議決濟
一 京都新古工藝品展覽會補助	1,100,895	
二 京都染工講習所補助	1,000,000	本年度限リノ補助トス
第十三款 盲啞院補助費	350,000	
第十四款 諸稅負擔	1,368,633	市有地ニ係ル地租地方稅及市町村稅
第十五款 公債費	34,600,000	
一 元金償還	10,000,000	元金償還
二 利子	24,600,000	募集濟ニ係ル市公債參拾六萬四千參百五拾圓及廿六年度ニ募集スル市公債四萬千參百圓ノ年六分利子
三 募集費	261,000	証券印紙新聞廣告印刷費臺帳用紙其他雜費

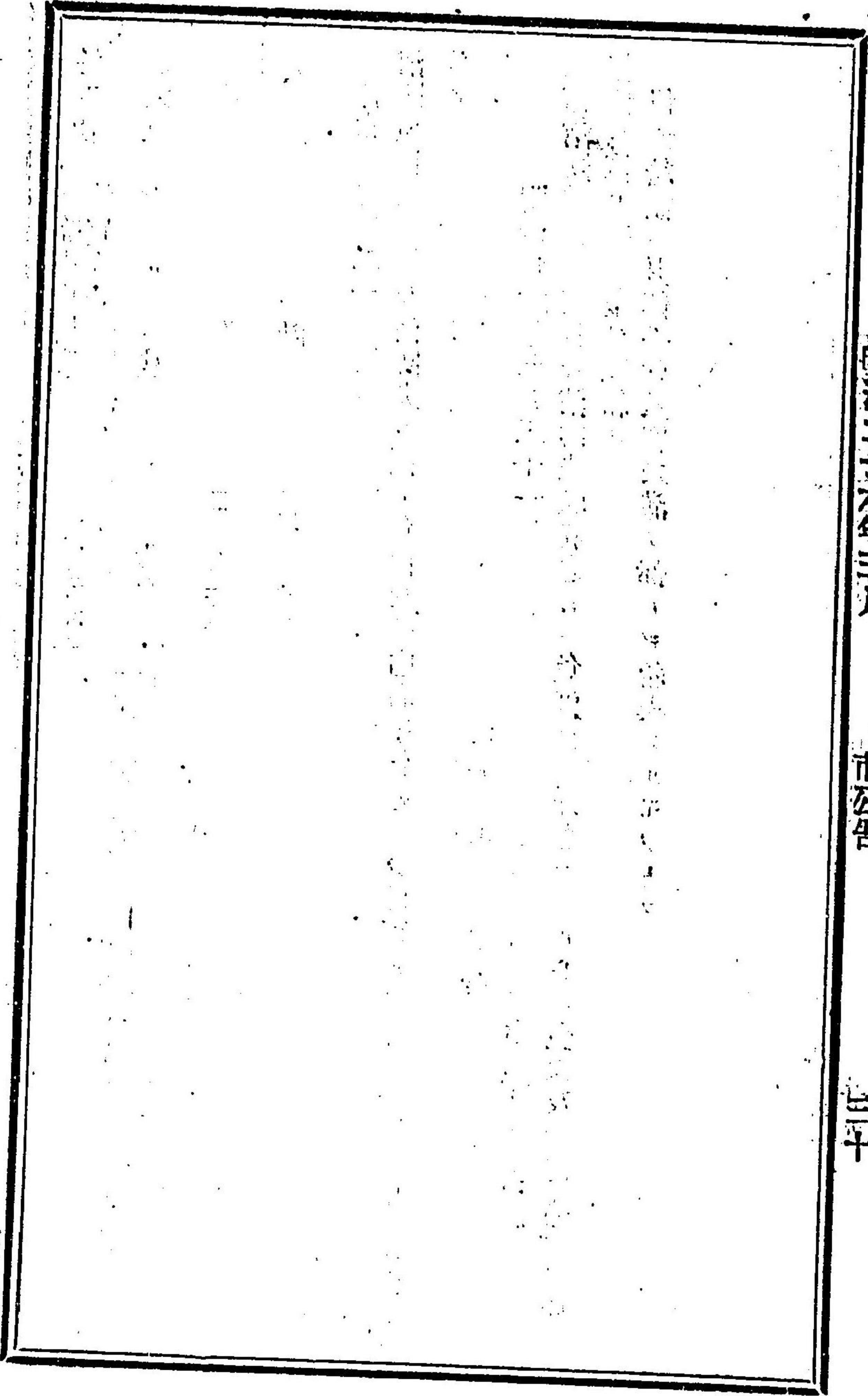
科	目	金額	付	記
第十六款	前々年度不足額補充	九四七六一三三		
第十七款	豫備費	五、九三、五七六		
計		一、二九、四六、二九八		
歳出臨時費				
第一款	博覽會場高堀新營費	三五七、五〇〇	議決濟	
第二款	圓山公園補助費	一五、〇〇〇、〇〇〇	內五千圓ハ議決濟	
第三款	疏水運河臨時修繕費	四八七、三六五		山科運河五十二號ヨリ七十號迄百八十間南側堤防土砂腹付工事及堤防据土地買上費參千參百參拾五圓大津關門修繕費參百六拾圓舟枘昇降鋼五百六拾圓アレキ貳百貳拾圓水車へ水賣口大小六ヶ所築造費參百九拾七圓參拾六錢五厘
第四款	鴨河新運河工費	八七、八八七、一六三		

第五款	高等小學校敷地買入費	三、〇〇〇、〇〇〇		
第六款	衛生費	五五〇、〇〇〇		天然痘豫防費（此內譯ハ第三十九號議案ニアリ）
小計		一一、六四七、〇一六		
合計		二四、一一〇、〇〇六		

京都市公告第二十八號
 消防組正副組長及消防夫ニ係ル負傷及死亡者手當給與ノ件市會ノ議決ヲ取リ別紙之通相定ム

明治廿六年三月三十一日
 京都市參事會
 京都市府知事 千田貞曉

本市消防組正副組長及消防夫職務之爲メ負傷又ハ死亡シタル者ハ負傷及死亡者手當給與條例ニ依リ手當金ヲ支給ス
 但支給額ハ月俸手當八圓未滿ノ部トシ給與スルモノトス



明治三十六年七月十八日印刷
空 年七月廿四日發行

定價金拾五錢

發行者

中西嘉助

京都府京都市上京區下立賣通小川東入
西大路町拾番戶

印刷者

松香堂中西嘉助

京都府京都市上京區下立賣通小川東入
西大路町拾番戶

廣告

酒精營業稅法及諸布達

全壹冊

●定價一冊金六錢
●市外郵稅貳錢

- 法律第十七號
- 勅令第五十八號
- 大藏省令第十號
- 京都府令第四十六號
- 全第四十七號

酒精營業稅法
醫藥用及工業用酒精營業稅免除ニ關スル件
酒精營業稅法施行細則
酒精營業人心得
醫藥用酒精販賣(使用)者心得

附錄

- 勅令第四百四十五號
 - 大藏省令第三十九號
 - 大藏省令第十三號
- 供託規則
供託規則ニ依リ寄託スル金銀有價證券取扱規程
金錢有價證券供託書ニ掲記方ノ件
- 右ノ如ク今般御發布ニ相成候酒精ニ關スル一切ノ法令ヲ網羅集輯シ且參照トナルヘキ法令ヲ附錄トシテ掲載シタル良書ナリ

●酒精營業施行細則

全一冊

價六錢
市外郵稅貳錢

●酒精營業人心得

明治廿六年六月

京都市上京區下立
賣通小川東入

中西松香堂